平成 19 年度生鮮農産物安全性確保対策事業

## 海外調査報告書

『海外の GAP 導入事例、審査・認証システムの調査』

平成 20 年 3 月

特定非営利活動法人 日本 GAP 協会

## まえがき

近年、消費者の間で食の安全や農産物の安全に関する問題が日常的な話題となっています。 農業生産者を含む食品事業者は、表示の問題や偽装の問題、残留農薬の問題から食中毒の問題 まで幅広く対応が求められています。海外においても、食の安全の問題に消費者の関心が集ま っており、その解決策の一つとして農産物生産段階におけるリスク管理手法である GAP( Good Agricultural Practice:農業生産工程管理手法)が有効かつ経済的であると普及が進んでおり ます。GAPの普及は欧州が先行していましたが、近年ではアフリカやアジア諸国でも普及が進 みつつあり、世界的な広がりをみせております。わが国においても GAP の普及は喫緊の課題 として農政の基本政策である「21世紀新農政 2007」の中でも重要な位置を占めております。

このような中、当協会では、農産物の安全性確保を図るため、わが国の生産実態、気象条件等に対応し国際的にも調和のとれた実効性のあるGAPを構築するため、農林水産省補助事業「生鮮農産物安全性確保対策事業」により、海外の GAP 導入事例及び審査・認証システムの調査を行いました。

海外 GAP の調査・分析

GAP 認証には農場ごとに審査を受け認証を取得する個人認証と、農場が団体を構成し団体として GAP に適合していることを審査する団体認証があります。団体認証の取り組みは、各農場の農場管理の労力を軽減し、検査認証のコスト負担が低くなるため、小規模生産者が多い日本の農業事情をふまえると有効な手段であるといえます。そこで、海外における先進的な GAP 導入事例に関する調査として、先行している欧州の GLOBALGAP において小規模生産者が団体で GAP に取り組んでいる事例を調査しました。スペイン、イタリア、ガーナは特にそのような事例が豊富であり、今回、その代表的な生産者団体を調査しています。

GAP 検査・認証システムの検討

GLOBALGAP 以外の GAP として近年普及が進んでいる ChinaGAP(中国) ThaiGAP(タイ) KoreaGAP(韓国)の検査・認証システムや導入指導員の育成などに関する調査をしました。

最後に、本調査では当協会の職員の他、下記の方々に参加頂き、様々な視点からの調査を実施いたしました。多大なご尽力を賜りましたことについて、厚くお礼申し上げます。

(農業生産者)丸田洋 (有)穂海(新潟の米生産法人)

手塚房夫 JA 山形おきたま

( 実需者 ) 壽原克周 日本生活協同組合連合会 (GAP 指導 ) 畠山耕一 八幡平農業改良普及センター

(学識経験者)横川洋 九州大学大学院

木立真直 中央大学

陳廷貴 九州大学 農学研究院

中嶋康博東京大学大学院

平成 20 年 3 月

特定非営利活動法人 日本 GAP 協会 事務局長 武田泰明

# 目次

まえがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第一章 GLOBALGAP の導入事例	
欧州における GLOBALGAP 先進産地	
1 スペイン:ロマノリアスの事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2 イタリア:VOG の事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
アフリカにおける GLOBALGAP 導入事例	
1 ガーナ:アドンテン・パイナップル生産販売組合の事例	14
2 ガーナ:ンサ・ゴールデンパパイヤ生産組合の事例・・・・	23
第二章 アジアにおける GAP 取り組み状況	
タイ王国・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
中華人民共和国 ************************************	35
大韓民国 ************************************	41
第三章 その他の GAP 取り組み状況	
GLOBALGAP と関連性を持つ GAP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48
政府・民間が主導する GAP ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	49
その他の分野で開発されている GAP ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51

### 第一章 GLOBALGAP の導入事例

#### 欧州における GLOBALGAP 先進産地

1 スペイン:ロマノリアスの事例

調査先対応者: Jose Manuel Garcia (ロマノリアス技術本部長)

調査団:木立真直(中央大学商学部教授) 手塚房夫(山形おきたま農業協同組合飯豊支店経

済支店長 ) 丸田洋 (有限会社穂海代表取締役 ) 横溝太郎 (日本 GAP 協会 )

調査期間:平成20年1月23日

### 組織概要

グループ名: Lomanoryas (以下、ロマノリアス) 所在地:スペイン王国アンダルシア州アルメリア県

経営形態:株式会社 設立年:2004年

代表者: Rogelio Villanueva Fernandez 社長(生産者)

組織図:図1参照

構成生産者戸数: 150戸

平均年齢:生産者 30代、(従業員を含めた平均年齢 約24歳)

GAP導入作物:ズッキーニ、マロー(カボチャの一種) トマト、なす、きゅうり

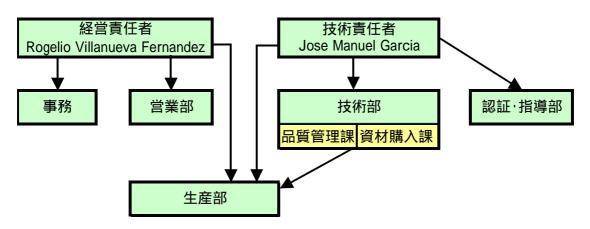
設立目的:取引条件のよい EU 圏内の大型量販店への輸出。

そのために必要であると考えた生産者の GLOBALGAP 認証、選果場の ISO9001

認証取得などを行うこと。

主な販路:イギリス、フランス、オランダ等の量販店 選果形態:ロマノリアスによる共同選果、共同販売

## 図1:ロマノリアス組織図



## (1)産地の概要

アルメリアは昔からのズッキー二産地である。当地でのズッキー二の生産は周年可能である。 ロマノリアスでは主要出荷国であるイギリスにおいて、7,8月はイギリス本土の生産者出荷が 多くなるため、その時期を作の切り替えに当てており、9~6月にかけて出荷している。 アルメリアは年間日照時間が3,000 時間を超える温暖な気候にもかかわらず、ほとんどが施設栽培となっている。その理由としては、冬場の温度確保である。施設栽培といっても日本のように台風や地震の多発地帯とは違うため、支柱が丸太で作られているなど簡易な作りのハウスが多い(図2)。また、降水量が少なく水が貴重なため、ハウスの屋根で降った雨を貯水池に集めるなどの工夫がされている。

## 図2 ズッキー二栽培施設



### (2)ロマノリアスの規模と生産者との関係について

ズッキーニとマロー(ズッキーニに似たカボチャの一種)が生産量のほぼ9割を占めており、 残りはトマト、なす、きゅうりである。栽培総面積は約100ヘクタールであり、うち約2割が ロマノリアスの自社農園となっている。グループの構成生産者数は150戸となっている。

生産者との契約は全量受け入れである。契約した生産者は生産物をすべてロマノリアスに出荷しなければならない。生産等のノウハウ提供を行ってコストをかけているためよそへの出荷は認められていない。

## (3) GLOBALGAP 導入状況について

ロマノリアスでは、150 戸のうち 10 戸が団体認証により GLOBALGAP を取得している。農場数は少ないが、大規模な農場が多いため、出荷量ベースで見ると 45%が GLOBALGAP 認証 ほ場から出荷している。

GLOBALGAP の認証を取得していない農場からの生産物は、GLOBALGAP を要求しない取引先へ出荷している。

なお、GLOBALGAP 認証を取得していない農場も GAP を導入し、農産物の安全等に配慮している。

## (4)出荷状況について

主な出荷先としてはズッキー二の場合、イギリスの量販店が2割、フランスの量販店が2割、 他はオランダやドイツ、スカンジナビア諸国となっている。イギリスは高い単価で販売でき、 ロマノリアスにとって利益率の高い販路である。マロー、トマト、ナスは国内向けが主体であ る。

また、各生産者のレベルに合わせ、GLOBALGAP より高い要求水準である Nature's Choice<sup>1</sup>をクリアする高品位商品から、GLOBALGAP を要求しない廉価な商品まで取り扱えるように、多様な取引先を確保し、出荷している。

## (5) GLOBALGAP 認証取得のきっかけ

## 1)きっかけ

元々創業の目的が輸出であり、GLOBALGAP認証を必要とする取引先への出荷を希望していたためである。また、大手量販店への出荷はロットの確保が必要なため、組織化による量の確保とGAPによる質的な水準確保が必須事項であった。

## 2)認証取得後の方針及び目標

販路拡大である。GAP の導入により販路を拡大した現在の最大の出荷先であるイギリスは、 単価は高いもののサイズが限定され、大きいものが売れ残ってしまう。ズッキー二は成長が早 く、予定していたサイズより大きくなってしまうことが多いため、大きいサイズを買ってくれ るスカンジナビア諸国の取引拡大を指向している。

また、規模拡大よりも利潤の拡大が優先事項であり、生産者の数をむやみに増やすより、優良生産者を増やすことが目標である。

### 3)認証取得前の取組

ロマノリアスでは GLOBALGAP 取得前から BRC<sup>2</sup>認証、イギリスの大手量販店であるテスコの Nature's Choice を取得している。GLOBALGAP 認証取得後には、IFS<sup>3</sup>、ISO9001<sup>4</sup>、ISO14001<sup>5</sup>、HACCP<sup>6</sup>、SA8000<sup>7</sup>の各認証を取得している。

## (6)認証取得までの工程について

## 1)生産者のコンセンサス

GLOBALGAP 団体認証の取得のため、生産者のコンセンサスを得る方法として、ロマノリアスの考え方に賛同する生産者のみを集め、その中から GAP に取り組める生産者を募った。そのためコンセンサスを図る際の障壁はなかった。

### 2) 認証取得に当たっての障害とその解決

高齢者や小規模生産者にとって GLOBALGAP の認証を取得することは、コスト的にも農作業的にも困難であると考えられた。そのため、それらの生産者向けに GLOBALGAP を必要としない取引先を確保した。そして GLOBALGAP に取り組むことが可能な大規模生産者に対してだけ認証取得を進めたため大きな問題は発生しなかった。

## 3) GLOBALGAP 導入決定から認証取得するまでの期間

GLOBALGAP 導入決定から認証取得までは 8 ヶ月要した。その中でも、生産者への教育に

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> Nature's Choice:イギリスの大手量販店テスコによる農場管理基準。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> BRC: 英国小売協会 (British Retail Consortium)。英国小売協会が取引先の食品製造業者に要求するシステム規格。

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> IFS: International Food Standard。フランスとドイツの小売業が取引先の食品製造業者に要求するシステム規格。

<sup>4</sup> IS09001:国際標準化機構による品質マネジメントシステムの要求規格

<sup>5</sup> IS014001:国際標準化機構による環境マネジメントシステムの要求規格

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> HACCP:食品製造工程上の危害要因を分析し、工程ごとに安全を確保する管理手法

<sup>7</sup> SA8000: 労働者の人権の保護に関する規範を定めた国際規格

もっとも時間が費やされた。

なお、ロマノリアスでは、(5)の3)で記載したとおり、GLOBALGAP以外にも各種認証を取得している。その認証取得に当たっては、取引先の要求する認証と自社で必要と考える認証をリストアップし、重要度や取りやすさを考えて認証取得ロードマップを作成し、それに沿って計画的に認証を取得している。

そのため短期間の内に各種認証を取得することができた。また、技術本部長の Garcia 氏がイギリスの流通業界で働いていた経験や GLOBALGAP 審査員経験が認証取得に役立っている。

#### 4) 生産者への研修

ロマノリアスでは、生産者に対し設立当初から様々な研修を行っており、現在も実施している。

さらに生産者はアンダルシア州が義務づけている以下の研修を受けている。

研修会の主催者:州政府指定の民間研修機関

講師:行政関係者、農薬メーカー 等

研修内容:農薬の安全使用、HACCP、IPM 技術、応急処置、農産物取扱いに関する

衛生の5つ。

開催回数:回数は不明であるが、かなりの回数実施している。

のべ研修時間:アンダルシア州指定の研修会は年間300時間の研修が義務づけられており、州の認可が明記された研修修了書がなければ農薬を散布することが出来ない。 農薬関係だけでも年間60時間以上研修している。

## 5)認証取得後の生産者の意欲の維持

販売価格が安定的に高値であることにより維持されている。ロマノリアスでは(5)の3)で記載したとおり GLOBALGAP だけでなく各種の認証を取得しており、それらが総合的に評価され、よい取引先を確保することができ、販売価格が安定的に高値であるといえる。

## 6)認証取得にかかった費用

直近での GLOBALGAP 団体認証の更新費用は 2,224.88 ユーロ(約37万円)。

なお、初回審査時の準備費用については残留農薬検査費用が最も大きく、その他には防護服 や保管庫の整備に多少費用がかかった。

### 7)GLOBALGAP 認証取得への行政機関の関わり

認証取得に関して行政の関わり・指導は特になく、行政機関は基本的に不干渉であった。 また、金銭的にも補助金等に支援もなかった。

ただし、(6)の4)で記載したとおり、州が認可する農薬安全使用などの研修がGLOBALGAP認証取得に役立っている。

### (7) GLOBALGAP 団体認証取得後の取組内容

### 1)団体におけるリーダー

GLOBALGAP 団体認証を維持していく上で、必要とされるリーダーは、ロマノリアスでは、 技術部門の責任者が務めており、創設者の一人である Garcia 技術本部長がリーダーとなってい る。

### 2)役割分担に基づく農場管理マニュアル

ロマノリアスの団体の農場管理マニュアルは、下記の項目からなる。

- 会社の方針
- 組織図

- 品質管理システム担当者一覧(名前と責任内容)
- 農作業のひとつひとつにおいて、その方針と具体的手順と使用する記帳用紙
- 収穫作業と収穫後の取扱いにおいて、その方針と具体的手順と使用する記帳用紙
- 残留農薬検査の方針とサンプル手順
- 内部監査システム
- 文書管理
- トレーサビリティー
- 違反の際の制裁措置
- クレームの対処
- リコール処置
- 品質管理方針
- 登録生産者情報一覧
- 使用可能な農薬・肥料一覧 (記帳用紙や情報の一覧はマニュアルの巻末に付録資料としてまとめている。)

## 3)マニュアルに定められている内容を実行するための取組

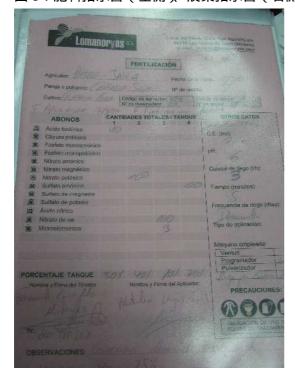
マニュアルを実行するため、団体内で技術指導員を決めており、この指導員が約10日ごとに各生産者へ巡回指導を行っている。現在、指導員は1名だけであり、一日あたり15軒程度の生産者を訪問している。この巡回では農薬散布や肥料散布などの作業指示、生産物の品質チェックを行っている。

肥料及び農薬の散布に当たっては、ロマノリアスが農薬や肥料などの使用可能資材リストを 作成し、生産者がそのリストに従って資材を購入する。散布は指導員から生産者に指示書が渡 され、指示書は生産者がサインをすることによって計画兼記録書となり保管される。(図3)

指導員は次回の訪問時に計画書どおりに作業を行っているか、間違った資材が使用されていないかを確認している。

また、リスト以外の農薬を使う生産者がいないか、残留農薬分析の抜き打ち検査をしている。 違反が発覚した場合、一時出荷停止、悪質な場合は除名といった制裁措置が執られる。

図3:肥料指示書(左側) 農薬指示書(右側)





## 4)情報共有

事務局と生産者間の情報の共有については、(7)の3)に記載したとおり指導員が定期的に 巡回することにより行われている。ロマノリアスでは、極力生産者の事務的負担を減らし、栽 培に専念できるような生産者と事務局の役割分担の体制を構築している。

また、グループを構成している各生産者内での情報共有は、農場経営者がロマノリアスから 各種情報を入手し、必要に応じて従業員に伝達している。IPM 技術、応急処置、衛生管理など 専門的な項目に関してはロマノリアスから指導員が出張して教育している。

なお、農場の収穫等を担当している従業員に聞いたところ、「GAP が何かは知らないが、自分がすべき業務内容と、禁止事項(ほ場での喫煙など)のそれぞれを遵守している」とのことであった。ほ場における農薬散布日や収穫可能日などの情報は、ほ場入り口に掲示し従業員全てが分かるようにしてあり、間違えて収穫することがないようにしている(図4)。



図 4:農薬散布日、収穫可能日の掲示

## 5)内部監査

内部監查員: Jose Manuel Garcia 技術本部長

Garcia 氏は、GLOBALGAP の審査員の資格を持っており、8 年の審査 経験を積んでいる。内部監査の際には、その経験を生かし審査員の視点か ら生産者の監査にあたっている。

内部監査の時期:特に決まっていない。

ただし、一方的に日程を決めるのではなく、生産者の都合がよい時 に実施。

内部監査生産者数: GLOBALGAP の規定により認定生産者すべてで実施(10生産者)

## (8)認証取得の効果について

## 1) GLOBALGAP 取得による具体的な効果

ロマノリアスとしては、GAP と GLOBALGAP は別物と考えている。GAP とは、正しい知識と技術に基づいた適切な農業生産のことであり、ロマノリアスはこの GAP に設立当初から今に至るまで力を入れている。GLOBALGAP の認証はロマノリアスの取り組みを外部に証明するために取得している認証の一つにすぎないと考えている。

そのため、GAPの導入によって生産の効率化、品質の向上、収量の増加がなされたのであり、これらは GLOBALGAP の認証を取得した効果というわけではないとの認識である。環境への配慮、安全・社会福祉の向上についてもロマノリアス設立当初からの方針であり、GLOBALGAPの認証を取得した効果というわけでないとの見解を持っている。

#### 経営改善

イギリスやフランスなど輸出による販路の拡大、イギリスのテスコなど単価の高い量販 店向けの出荷が可能となり、販売価格の増加といった効果が見られる。

#### 生産コスト

GAP の導入により生産の効率化が図られ、生産コストは減少し、品質向上と収量の増大が図られている。しかし、GLOBALGAP の認証取得は取引の条件であるが、認証コストが大きな負担となっている。

#### 品質向上

認証取得の効果でなく、GAP 導入の効果として、適切な指導に基づく農薬散布や肥料散布やその他の作業の結果、品質は向上した。

なお、選果場における GAP 導入の効果として、集荷施設内に冷蔵と常温という複数の取引先スーパーの棚と同じ条件で商品を保管できる部屋を設けており、日持ちのチェックを行っている。スーパーに対し一定期間内での商品の日持ちを保証するとともに、万一、クレームがあった場合に、迅速に対応できるような記録を残している。

#### 労働安全の向上

GAP の導入により労働安全の向上を図っているが、さらなる労働福祉の向上のために選果場では SA8000 を取得している。

また、傘下の農場に対しては、ここまで厳しく認証を求めていないが、すべての農場が 安全・品質・社会福祉(労働環境)環境への配慮を自主的に取り組んでいる。

#### 環境への配慮

GLOBALGAP 認証とは直接関係ないが、環境保全の一環として、地元の固有種である リュウゼツランやオリーブの木の植林を行っている。環境保護団体への寄付や地元中学生 に対する環境教育も行っている。

## 2) バイヤーから求められた GAP 以外の認証

フランス、ドイツ、オランダ、ベルギー、オーストリアなどの顧客からは IFS、イギリスの 顧客からは BRC を求められ、また、ISO9001 も顧客からの要求のため認証を取得している。

なお、ISO14001、SA8000、テスコの Nature's Choice については自主的な取り組みとして、 認証を取得している。

### 2 イタリア: VOG の事例

調査先対応者: Georg Warasin (VOG 品質保証部長)

調査団:木立真直(中央大学商学部教授) 手塚房夫(山形おきたま農業協同組合飯豊支店

経済支店長 》 丸田洋 ( 有限会社穂海代表 ) 横溝太郎 ( 日本 GAP 協会 )

## 組織概要

グループ名: VOG

所在地:イタリア共和国アルト・アディジェ特別州ボルツァーノ自治県

経営形態:協同組合 設立年:1945 年

代表者: Matthias Josef Gamper 組合長

構成生産戸数:5,437戸 GAP導入作物:リンゴ

設立目的:地域生産者の協同による 流通拡大、 技術改革、 品種更新、 品質管理、

環境配慮、 ブランド確立

## (1)産地の概要

アルト・アディジェ特別州は北をオーストリアと接し、第一次世界大戦以前まではオーストリア領であった。このためドイツ語で南チロル(SÜDTIROL)と呼ばれることが多く、町中の表記もイタリア語とドイツ語が併記されているなど現在でもドイツ系の住民が多い地域である。VOG のスタッフもすべてドイツ系である。

## (2) VOGの規模と生産者との関係について

VOG は、いわば日本での県経済連や全農県本部に類似する地域の単位農協を束ねる販売専門 農協連といった形態の組織である。VOG 傘下には、慣行栽培を基本とする組合が 20、有機栽培を中心とする組合が 1、合計 21 の組合がある(図 5)。事務局は、経営、品質保証、営業、 広報、マーケティングの各部門で構成されており、GAPに関しては品質保証部が担当している。

### 図 5 組合の位置図



## (3) GLOBALGAP 導入状況について

GLOBALGAPの団体認証は、有機組合をのぞく20組合の生産者5,000戸(VOG全体の92%)で取得し、面積は10,032ヘクタール(VOG全体の95%)に及んでいる。

21 OG Zwölfmalgreien

### (4) 出荷状況について

VOG のリンゴ生産量は 2006 年に 58 万トン、2007 年には 60 万トンとなっている。2006 年の販売総額は、約3億ユーロ(約500億円)であった。

## (5) GLOBALGAP 認証取得のきっかけ

#### 1)きっかけ

10 OG Grufrut

11 OG Kaiser Alexander

GLOBALGAP 認証取得のきっかけはイギリス、スカンジナビア諸国の出荷先からの要求である。 販路維持のため、まずそれらの地域に輸出していた 13 組合が GLOBALGAP に取り組み始め、2003 年に最初に取得した。

#### 2) 取得後の方針及び目標

EU 圏内の大手量販店向け出荷には GLOBALGAP の認証取得は必須条件である。そのため、 VOG としては ISO14001 など他の認証も取得することで企業の価値を高め、取引先のニーズ を捉えていきたいと考えている。

## 3) 認証取得前の取組

選果場において、HACCP(1994年導入) ISO9001(1999年認証取得)に取り組んでいる。 ISO9001 導入の取り組みに対しては、EU から認証取得団体に対して人件費や運営費に対する補助金が出ているためそれを利用した。

### (6) 認証取得までの工程について

## 1) 生産者のコンセンサス

GLOBALGAP 認証取得が出荷先の取引要件となり、販路維持に不可欠となったことから生産者のコンセンサスを得られた。

## 2) 認証取得にあたっての障害とその解決

認証取得には審査費用と管理費用の増大が伴った。そのため、当初は GLOBALGAP を必要とする取引先に出荷している生産者のみが取り組んでいた。

## 3) GLOBALGAP 導入決定から認証取得するまでの期間

2003年7月に導入決定がなされ、9月に認証取得した。

#### 4) 生産者への研修

生産者に対する研修は VOG ではなく、県が行っている。国の法律で農薬の取扱いや作業者の安全に関する講習の開催が決まっており、合格した場合は農薬使用免許が発行される。講習の実施主体は都道府県となっている。例えば農薬の取扱いについては 4 時間の講習で 5 年間有効となっている。そのため認証取得後の研修会も農薬の取扱い研修など認証の中で定められている訓練の有効期間に合わせて研修が行なわれている。

## 5) 生産者への研修証取得後の生産者の意欲の維持

GLOBALGAP は輸出には欠かせない認証のため、各生産者は当然行うものと考えている。

## 6) 認証取得にかかった費用

GLOBALGAP 年次審査において、前回は 71 戸の生産者が審査を受けた。1 日あたり 3 生産者の審査が行われ、24 日間要した。審査費用は一日あたり 1,000 ユーロ(約 17 万円)かかっている。認証取得農場数の平方根の数が審査を受けるべき農場数なので 5,000 戸でも 71 戸の審査で済み、費用削減だけでなく、審査日数削減の意味も大きい。また、品種により収穫時期がずれているため、収穫時期の谷間に審査を行うようにしている。

#### 7 ) GLOBALGAP 認証取得への行政機関の関わり

GLOBALGAP 審査費用について行政による金銭的支援は特にない。

## (7) GLOBALGAP 団体認証取得後の取組内容

### 1) 団体におけるリーダー

グループ内のリーダーは VOG の品質保証部である。しかし、21 の組合を束ね、5,000 戸を超える生産者を抱えており、品質保証部が直接生産者に指導するのは困難であるため、AGRIOS®という監査会社に業務委託を行い、AGRIOS と各組合が生産者に指導を行っている。

#### 2) 役割分担に基づく農場管理マニュアル

農場管理マニュアル・帳票類として AGRIOS が栽培のガイドラインを定めている。ガイドラインには使用できる農薬・肥料のリスト、使用基準、記録様式が定められている。

### 3) マニュアルに定められている内容を実行するための取組

ガイドラインの選択肢の中から生産者が使用する農薬などを購入・選択し組み合わせるとガイドラインに基づいた予定表が作成される。この予定表を作業者が利用し、サインを記入することにより作業履歴の記録となる。栽培に関する管理や記帳の確認などは AGRIOS が担当している。

## 4) 情報共有

-

<sup>&</sup>lt;sup>8</sup> AGRIOS: アルト・アディジェ特別州における民間農場管理指導・監査会社。防除・施肥に関するガイドライン作成、農場監査などを行っている。

事務局からの情報はファクシミリで生産者に送られている。また AGRIOS からもファクシミリやインターネットを通じて情報が送られている。生産者は全戸インターネットを活用しており、栽培のガイドラインについても毎年2月に AGRIOS が公表し、生産者がダウンロードしている。生産者内での情報共有は農場経営者が従業員に対して指導を行っている。

#### 5) 内部監査

生産者への内部監査は組合と AGRIOS が協力して行っている。また、内部監査の対象農場は GLOBALGAP の規定に従い、認証生産者すべてが対象となっている。

## (8) 認証取得の効果について

## 1) GLOBALGAP 取得による具体的な効果

GLOBALGAP の認証取得による具体的な効果は、輸出拡大である。具体的には以下のとおり。

### 経営改善

条件のよい取引先への出荷が可能となり、よい単価を維持できている。

生産コスト

GLOBALGAP の認証取得以前から、農場においては AGRIOS の栽培のガイドラインを守り、選果場においては ISO9001 認証の品質管理システムを導入していたため、GLOBALGAP 認証取得により特に生産コストは変化しなかった。

なお、天敵農薬導入当初は化学農薬より費用がかかったが、何年も続けていくうちに天 敵が増加し、天敵農薬処理の手間が減少したことにより、農薬代、人件費が削減された。 品質向上

GLOBALGAP 導入により農場管理基準が統一され、品質の一定水準確保ができるようになり、品質向上につながっている。

労働安全の向上

生産コストの項目と関連して、化学農薬の使用量が減ったことにより、農薬事故が減少した。

#### 環境保全

AGRIOS のガイドラインは IPM を導入しており、化学合成農薬削減、フェロモン剤導入などにより環境への配慮がなされている。

#### 2 ) バイヤーから求められたGAP以外の認証

取得済み

VOG: Nature's Choice (イギリスの量販店、テスコの農場管理基準。)

取得予定

VOG: ISO14001

組合: ISO14001、BRC、IFS

なお、認証ではないが、イギリス、スカンジナビア諸国、さらにイタリア国内 5 つの量販店の現地監査を受けている。ドイツの取引先は書類は厳しく審査するものの現地監査はない。

## アフリカにおける GLOBALGAP 導入事例

## 1 ガーナ:アドンテン・パイナップル生産販売組合の事例

調査先対応者: Lemuel Charles Mantey (アドンテン・パイナップル生産販売組合組合長)

調査団:榎本礼子(日本 GAP 協会) 調査期間:2008 年 2 月 16 日(土)

#### 組織概要

グループ名:アドンテン・パイナップル生産販売組合

所在地: ガーナ共和国イースタン州、南アクワペム県、ポクロム村

経営形態:協同組合 設立年:1983年

代表者: Lemuel Charles Mantey 組合長 構成生産者戸数:50戸(2008年2月現在)

平均年齡:約35歳

GAP導入作物:パイナップル

設立目的: 地域のパイナップル生産者の販売の共同推進

主な販路:輸出業者とジュース加工業者

選果形態:業者による収穫・出荷

#### (1)産地の概要

アドンテン・パイナップル生産販売組合はガーナ共和国イースタン州、南アクワペム県、ポクロム村に所在するパイナップルの共同組合である。

ガーナにおいて農業は GDP の 36%を占める重要な産業となっている。南アクワペム県は首都アクラから約 20km 北上した地域にあり、他地域に比べ交通の便もよいためバナナやパイナップルの生産が盛んで欧州市場向けの出荷が増えつつある。特に、南アクワペム県はガーナ全体のパイナップル輸出額の 6 割を占める、ガーナにおけるパイナップルの主産地である。

地元の市場向けに生産される野菜とは違い、パイナップルは主に輸出を目的として生産されており、バイヤーから GLOBALGAP の認証、品質管理や生産規模についても高いレベルのものが要求される。そのため、パイナップルの生産・輸出は熱心で、やる気のある若い生産者が参入している。

栽培しているパイナップルの品種は MD2 とスムーズカイエンとシュガーローフの 3 種類となっている。

MD2 はヨーロッパの市場で人気があり、主な輸出品種である。スムーズカイエンは MD2 が 出現するまでは輸出が盛んに行われていた品種で、今でも小規模であるが、主に中東の市場へ の輸出用やジュース用の加工のための生産が続いている。シュガーローフは大変糖度が高く、 地元の市場で人気がある品種であるが、傷みやすいため輸出には向いていない。

### (2) アドンテン・パイナップル生産販売組合の規模と生産者との関係について

生産規模は、組合全体として、150エーカー(60ha)の栽培面積を持っている。

組合は生産者が出荷のために組織したもので、輸出向け、加工向けの出荷は組合が全量受託し、業者への販売を代行をしている。販売量や販売価格は収穫前に組合と業者が商談を行い決めている。地元市場向けの出荷に関しては、組合は関知していない。

組合の役員は組合員である生産者から選出されている。組合の財源は組合員から徴収する組合費でまかなわれている。

## (3) GLOBALGAP 導入状況について

GLOBALGAP の導入については、15戸が団体審査により認証を取得している。

なお、GLOBALGAP の団体認証取得後、入会希望が殺到しており、急激に組合員数が増えてきている状況である。

#### (4)出荷状況について

主な販路としては輸出業者とジュース加工業者に出荷している。

輸出業者のうちの 1 社はカットフルーツのパックをイギリスに輸出している加工・輸出業者である。買い取り単価が高く(1キログラム当たり 0.2 シディ、約 30 円) GLOBALGAP 認証 農場からの出荷の 8 割がこの業者向けとなっている。他に販路として、もう 1 社の輸出業者と取引している。

ジュース加工業者は、買い取り単価が低いものの(1 キログラム当たり 0.08 シディ、約 12円)全量買い取りである。現在は生食用とジュース加工用で作付けを分けておらず、出荷の際に需要に応じて振り分けている。

なお、パイナップルの出荷形態は特殊であり、生産者は収穫・選果作業を行わない。収穫は業者が農場まで収穫労働者を連れてきて直接行う。そのため GLOBALGAP の審査においては収穫以後の工程は「該当外」が適用される。

### (5) GLOBALGAP 認証取得のきっかけ

## 1)きっかけ

パイナップルの地元市場への販売は、やや飽和状態であり、大量には買い付けてくれない上に単価も低いため、地元市場だけを相手に生産するのでは経営が成り立たない。2004年頃から EU の大型量販店向けは GLOBALGAP 認証が要求されるようになり出荷ができなくなってしまい、中東や EU の小型量販店などにしか出荷できなくなり売り上げが減少した。このために、単価の高い輸出販路を確保するために GLOBALGAP 認証の取得が課題であった。

ガーナでパイナップル輸出を行っている輸出業者は基本的に GLOBALGAP 認証を要求してきている。GLOBALGAP 認証がなくても取引可能な輸出業者もあるが、その場合中東やヨーロッパの小型量販店など GLOBALGAP 認証を要求しない顧客を探さなければいけないので、当該業者が買う量は限られてくる。GLOBALGAP 認証がなくても取引可能な中東への出荷に非常に力を入れている輸出業者は 2 社あるが、生産者が「GLOBALGAP 認証を受けている」というのは大きなプラスポイントである。

また、業者が必要とするロットを確保する観点からも団体として同じ認証を取得することが 有効であった。

業者から認証取得の要求は、2004年頃よりされるようになってきていたが、審査費用など金銭的な問題により困難であった。2007年になり、USAID/TIPCEE9プロジェクト(以下プロジ

<sup>9</sup> USAID :米国国際開発庁、アメリカにおける海外援助を行う政府組織

TIPCEE: USAID のプロジェクト名 Trade and Investment Program for Competitive Export Economy の略 ガーナにおける農業の輸出競争力を上げるための包括的な援助プロジェクト。 プロジェクト予算は約30億円、11の作物が対象となっている。

ェクト)を活用し、認証取得が実現する運びとなった。

## 2) 認証取得後の方針及び目標

認証取得による輸出販路を獲得し、それをさらに拡大していくことが目標となっている。主力生産者 15 名が認証取得をしたので、今後は毎年認証取得生産者を増やしていく予定である。

## 3)認証得前の取組

GLOBALGAP 取得以前にそれ以外の取り組みは特に行ってきていない。

#### (6)認証取得までの工程について

## 1)生産者のコンセンサス

輸出販路獲得による単価の向上は生産者の共通の目的であったため、プロジェクト参加に関 してのコンセンサスはスムーズに得られた。

## 2) 認証取得にあたっての障害とその解決

認証取得の障壁としては、 審査費用、 設備投資費用、 読み書きのできない人の存在、 の 3 点があげられる。

審査費用はプロジェクトによる援助により解決した。

設備投資費用は、例えば農薬保管庫がない生産者は、空のドラム缶を改造して鍵をかけられる構造と棚を作り、農薬保管庫にする方法などのコストをかけずにすむ工夫をプロジェクトから教えてもらうことにより解決した。(図 6)

読み書きのできない人の存在に関しては、数字の読み書きができる人は記帳のやり方を数字だけで済むようにしたり、まったく読み書きのできない人に対しては、読み書きのできる家族や従業員に指導することにより解決した。





## 3) GLOBALGAP 導入決定から認証取得するまでの期間

審査日程はプロジェクトにより決められていた。プロジェクト開始から審査まで3ヶ月しかなく次の手順により導入が行われた。

生産者に対する導入手順は、 GAP 概要の講習(2週間) 応急処置訓練を含む農薬安全使用講習(3週間) 衛生講習(2週間) 団体農場管理マニュアル講習(2週間) 不適合是正を含む内部監査(2週間) 最終チェック(1週間)の合計12週間である。

団体事務局の導入手順として、 団体農場管理マニュアルの作成講習(5週間) 団体農場管理マニュアルの編集・作成(2週間) 残留農薬分析の実施を含む団体農場管理マニュアルの導入(2週間) 不適合是正を含む内部監査(2週間) 最終チェック(1週間)の合計12週間である。

## 4) 生産者への研修

文字の読み書きがきちんとできる人が少なかったため、記帳の習得が導入の際にはもっとも 時間を要した。そのため、研修では記帳のやり方や必要性など記帳に時間を割いて重点的に指 導した。

## (a)講習会の講師

プロジェクトのスタッフ

ガーナ・パイナップル輸出協会の技術責任者

地域の農業改良普及員

生産者リーダー(一連の講習を終了し既に認証を受けた他団体のリーダーを含む) が担当した。

#### (b)講習に使用されたテキスト

テキストはプロジェクトにより準備されていた以下のものが使用された。

Training Guide – EurepGAP Option 2 – Site Preparation and Planting (パイナップルを生産する際の圃場の選択、種苗の管理、施肥の管理などの GLOBALGAP 管理点と適合基準について、生産者向けにイラストと写真を中心に解説した資料)

Training Guide –EurepGAP Option 2 – IPM and Pesticide Handling (パイナップルの IPM 技術と農薬の適切な管理と使用に関する GLOBALGAP の管理点と適合 基準について、生産者向けにイラストと写真を中心に解説した資料。記録用紙も含まれている)

Training Guide –EurepGAP Option 2 – Forcing and Degreening (パイナップルの開花促進剤の散布と色付けのためのエチレンの散布に関する GLOBALGAP の管理点と適合基準について、生産者向けにイラストと写真を中心に解説した資料)

Farm Hygiene Poster (図7)

(農場での衛生に関する GLOBALGAP の管理点と適合基準について、生産者向けにイラストで解説したポスター。収穫・農産物取り扱いを輸出業者が行っており、生産者が関与しない場合は、生産者はこの衛生規定を満たせばよい。ポスター自身が講習の資料として使用され、講習の最後には生産者一人一人に1枚ずつ配布され、農場における衛生表示として使用される)

図7:農場衛生ポスター



Hygiene at Harvesting and Produce Handling Poster (図8)

(収穫と農産物取扱いの衛生に関する GLOBALGAP の管理点と適合基準について、生産者向けにイラストで解説したポスター。収穫・農産物取り扱いを生産者が自分達で行っている場合は7 のポスターで説明されている衛生規定の上にこのポスターの内容が追加される。ポスター自身が講習の資料として使用され、講習の最後には生産者一人一人に1 枚ずつ配布され、農場における衛生表示として使用される)

図8:収穫・農産物取扱い衛生ポスター



## ( c )講習の開催回数・時間

講習は4回にわたり、以下のテーマと時間で行われた。

1回目:圃場の選択~肥料散布(4時間) 2回目:IPM と農薬の適正管理(6時間)

3回目:開花促進剤散布~エチレン散布(2時間)

4回目:衛生管理(2時間)

以上計14時間。

### (d)研修費用

2007年の研修費用はプロジェクトから出ている。2008年からの技術指導の費用について、 プロジェクトが作成した教材はすでに手元にあるので、同じ教材を使ってすでに研修を受けた 組合生産者が指導することにより人件費を抑える予定になっている。

参考:内部管理システム担当者向けの講習

生産者向け講習の講師と同じ

## テキスト

1. EurepGAP Option 2 – QMS Training Material

団体農場管理マニュアルを生産者自身が構築するための教材。農場管理システムの要素について6つの講習に分けて解説している。それぞれの講習で講師による説明があり、講義後、習ったことを自分のグループにおいて考え、システムを構築することが毎回宿題として出される。

やった宿題は次の講習で見直された上でその団体の農場管理マニュアルの一部となる。6回の講習にわたってこれが行われ、全ての講習が終わったときには団体管理マニュアル(Quality Management System Manual)ができ上がっている仕組み。

## 2.EurepGAP Option 2 Progress Monitoring Tools

プロジェクト内部で使用しているモニタリングシート。GLOBALGAP の団体認証に向けての団体レベルの準備項目とメンバーレベルでの準備項目がそれぞれ2、3ページほどにまとめてあり、これにチェックを入れることで準備の完了具合が一目でわかるようになっている。このモニタリングシートに全てチェックが入った団体は、この文書の巻末にある「ファイナルチェック」シートに基づいて最終チェックを行う。この「ファイナルチェック」シートにはGLOBALGAP の基準自身には明記されていなくても GLOBALGAP 審査で審査員がチェックしてくる重要事項がリストアップされている。例えば、農薬保管庫の在庫台帳に記録されている出庫の日付と数量が農薬散布記録の日付と使用量と一致しているかどうか。これをチェックすることによって記帳の内容の信憑性が判断できる。

講習の開催回数

農場管理システム担当者レベルでは6回開催された。

研修時間

農場管理システム担当者レベルで

各セッションが3時間の6回開催で計18時間。

研修費用

生産者向け講習と同じ。

参考:内部監査員向けの講習

内部監査員養成のために以下の講習も実施された

内部監査員の養成コースは農場審査レベルでは丸2日であり、事務局審査レベルの内部監査 員はこれに1日プラスされて、計丸3日となる。

#### 5) 認証取得後の生産者の意欲の維持

生産者は GLOBALGAP 取得により今年度から EU 向けパイナップル輸出が可能になるという期待を持っているため認証取得後の意欲は高い。

#### 6)認証取得にかかった費用

認証取得のための初期費用の負担はプロジェクトの援助によりほぼないに等しく、かかったのは時間と労力であった。農薬保管庫が高い出費になると予想されたものの、空のドラム缶を改造して鍵をかけられる構造と棚を作り、日本円にして 1,000 円ほどの出費でできた(図9)。また、収穫作業は4で記載しているとおり、業者が収穫労働者を農場まで連れてきて収穫するため生産者は直接携わらない。このため、収穫に関する GLOBALGAP の管理点が全て「該当外」扱いになるため、トイレの設置は要求されないことからその費用が不要になる。

認証費用についても、プロジェクトが初回の審査費用を負担したため生産者の負担はなかった。

### 7) GLOBALGAP 認証への行政機関の関わり

ガーナ政府の方針として、パイナップル輸出のための GLOBALGAP 認証取得を推奨している。そのためプロジェクトの資金の一部をガーナ農水省が負担している。

また、講習には地元の改良普及員が必ず参加し、細かなモニタリングや内部監査などで活躍

した事がプロジェクトの成功に貢献した。(なお、その地域の改良普及員も内部審査員の講習を受け、内部監査員として団体を支援している)。

## (7) GLOBALGAP 団体認証取得後の取組内容

## 1)団体におけるリーダー

団体におけるリーダーは、組合長である。選挙において選出され、任期は3年となっている。 リーダーの役割としては、以下の取り組みを行っている。

- ・参加メンバー(生産者)の GAP 基準遵守の監督
- ・内部監査の準備
- ・内部監査時の不適合の調査
- ・新規メンバー参加時の監査
- ・上記新規メンバー監査の不適合調査
- ・メンバーに対する制裁措置の追跡調査
- ・外部審査のための審査機関との調整
- ・メンバー登録の更新

## 2)役割分担に基づく農場管理マニュアル

農場管理マニュアルは上記講習で作成した Quality Management System Manual である。マニュアルで定めた記帳が必要な書類は下記の通り。

- ・リスク検討表
- ・農場登録票
- ・入会申込書
- ・ごみと汚染源の識別表
- ・農作業記録
- ・施肥記録
- ・防除記録
- ・病害虫観察表
- ・農薬在庫記録
- ・肥料在庫記録
- ・機械整備記録
- ・秤量器校正記録
- ・トレーサビリティ記録
- ・使用化学物質リスト
- · 残留農薬検査記録
- ・苦情受付票
- ・商品回収記録
- ・内部監査報告書
- ・是正措置報告書
- ・訓練記録
- ・圃場地図

## 3)マニュアルに定められている内容を実行するための取組

マニュアルを実行するため、6(3)の導入手順に従い、指導員が7(2)に記載されている各種帳票の書き方の研修を行い、生産者がマニュアルを実行する手助けを行っている。記帳した帳票類の確認は内部監査にて行われている。

## 4)情報共有

事務局と生産者の間の情報共有方法は月1回行われる集会において口頭によって行われる。 というのも大半のメンバーが読み書きできないからである。同様に農場内での情報の共有も口 頭での伝達である。

## 5)内部監査

内部監査員はプロジェクトによる内部監査員講習を受けた生産者と地元の改良普及員がなっている。内部審査を行う時期は1-3月に1回、6-9月に1回、計2回となっている。

## (8)認証取得の効果について

## 1) GLOBALGAP 取得による具体的な効果

経営改善

GLOBALGAP 認証取得により単価の高い EU 向けの出荷ができるようになった。さらに、 認証取得により国内の取引先への信用が高まり、販路が拡大し経営が改善された。

また、GLOBALGAP 導入により組合員の記帳が向上し、現在では全員がきちんとした記帳を行っている。この記帳は農薬・肥料適正使用の基礎となり、取引先の信用増大にもつながっている。

また、取引量の増大による組合への入会希望者が増加し、組合の規模が拡大した。

生産コスト

IPM 技術の導入により農薬使用が減ったことによる農薬コストの減少が生産コストの減少にあげられる。

品質向上

肥料の散布について、グループで定めた基本施肥ガイドラインに従って適切な量を使用するようになったため品質が向上した。

労働安全の向上

保護服の着用が徹底された結果、労働者の健康面が改善された。

環境保全

ゴミの回収が徹底され、ほ場でのプラスチックゴミの散乱がなくなりきれいになった。

#### 2)パイヤーから求められた GAP 以外の認証

GLOBALGAP 以外の認証については、現在フェアトレード認証取得に取り組んでいる。さらに輸出用ジュース加工専用パイナップルの生産を始めることにしたので、その生産技術の講習も受けている。この講習は USAID/TIPCEE プロジェクトが行っている。

これらの講習の主催者について、Care International という NGO と WAFF (West African Fair Fruits Ltd.)という民間会社が共同でフェアトレードの講習を開催している。

### 2 ガーナ:ンサ・ゴールデンパパイヤ生産組合の事例

調査先対応者:John Oduro Nkansah ( ンサ・ゴールデンパパイヤ生産組合組合長 )

調査団:榎本礼子(日本GAP協会) 調査期間:2008年2月23·24日(土·日)

## 組織概要

グループ名:ンサ・ゴールデンパパイヤ生産組合

所在地:ガーナ共和国グレーター・アクラ州ンサワム県アクラマン市

経営形態:協同組合 設立年:2007年

代表者: John Oduro Nkansah 組合長

構成生産者数及び人数:10戸

平均年齡:40歳

GAP導入作物:パパイヤ

設立目的:パパイヤの輸出を開始・促進

主な販路:輸出業者と地元市場

出荷形態:選果場や加工工場への生産者直接持ち込み

## (1)産地の概要

ンサ・ゴールデンパパイヤ生産組合はガーナ共和国グレーター・アクラ州ンサワム県アクラマン市に所在するパパイヤの生産組合である。ンサワム県はガーナにおけるパパイヤ生産の唯一の産地である。ガーナにおいてパパイヤ輸出はこのンサ・ゴールデンパパイヤ生産組合によって最近始められたばかりであり、ガーナの新しい輸出農産物として成長する可能性が期待されている分野である。

### (2) ンサ・ゴールデンパパイヤ生産組合の規模と生産者との関係について

栽培品目はパパイヤである。品種は 2 つあり、ゴールデンパパイヤ 16 ヘクタールとソロ 35 ヘクタールである。このうちゴールデンパパイヤが主たる輸出向け品種となる。

組合は自社農場を持っている輸出業者が主導して設立された。輸出向けの出荷は組合が全量 受託している。

事務局の構成メンバーは組合長、副組合長、書記、経理・会計となっている。生産者の平均 年齢は40歳であり、グループの構成生産者数は10戸である。

### (3) GLOBALGAP 導入状況について

GLOBALGAPの導入については、構成生産者10人全員が団体審査による認証を受けている。

## (4)出荷状況について

主な販路は輸出業者と地元市場である。輸出業者は 2 社と取引があり、一つが組合設立に関わった輸出業者であり、もう一つがカットフルーツのパックをイギリスに輸出している加工・輸出業者である。出荷形態としては、生産者が選果場や加工工場へ持ち込む形になっている。

## (5) GLOBALGAP 認証取得のきっかけ

## 1)きっかけ

この組合は輸出業者が EU 輸出にむけて趣旨に賛同する生産者を集めて作った組合であるため、GLOBALGAP 取得が必要であった。個人認証は生産者への負担(費用面、教育面など)が大きく、また量の確保が困難であるため、生産者を事務局が管理する団体認証が選択された。また、団体認証でも審査コストが負担となるため、USAID/TIPCEE<sup>10</sup>プロジェクト(以下プロジェクト)を活用した。

## 2)認証取得後の方針及び目標

GLOBALGAP 取得後の方針および目標は輸出販路確保と拡大となる。

## 3)認証取得前の取組

今回の GLOBALGAP 取得以前には特に取り組みは行っていない。

## (6)認証取得までの工程について

## 1)生産者のコンセンサス

この組合は輸出業者が EU 輸出にむけて趣旨に賛同する生産者を集めて作った組合であるため、認証取得が生産者全員の共通目標であった。

### 2)認証取得にあたっての障害とその解決

認証取得にあたって障壁としては、 審査費用、 設備投資費用、 読み書きができず記帳 の困難な人の存在の3点である。

審査費用はプロジェクトによる援助により解決した。

設備投資費用はコストをかけずにすむ工夫をプロジェクトから教えてもらうことにより 解決した。

読み書きができない人に対しては、教育を受けている家族(息子など)が代わりに記帳することで対応した。

## 3) GLOBALGAP 導入決定から認証取得するまでの期間

日程はプロジェクトにより決められていた。プロジェクト開始から審査まで1ヶ月半しかな く、次の手順で導入が行われた。

生産者に対する導入手順は、 GAP 概要の講習、 農薬安全使用講習( 応急処置訓練を含む ) 衛生講習、 団体農場管理マニュアル講習、 内部監査 ( 不適合是正を含む ) 最終チェック、となっている。

団体事務局に対する導入手順は、 団体農場管理マニュアルの作成講習、 団体農場管理マニュアルの編集・作成、 団体農場管理マニュアルの導入(残留農薬分析の実施を含む) 内部監査(不適合是正を含む) 最終チェック、となっている。

これらの導入手順は、通常であれば3ヶ月以上かかるものを毎日集中的に指導を行い、フォローアップの期間を最短に縮めて導入を図ったものである。

#### 4) 生産者への研修

GLOBALGAP を知るための研修会は、USAID/TIPCEE プロジェクトが主催した。

#### (a)講習会の講師

プロジェクトのスタッフ

10 USAID :米国国際開発庁、アメリカにおける海外援助を行う政府組織

TIPCEE: USAID のプロジェクト名 Trade and Investment Program for Competitive Export Economy の略 ガーナにおける農業の輸出競争力を上げるための包括的な援助プロジェクト。 プロジェクト予算は約30億円、11の作物が対象となっている。

輸出業者のスタッフ

が担当した。

## (b)講習に使用されたテキスト

テキストはプロジェクトにより準備されていた以下のものが使用された。

Training Guide – Papaya – Nursery and Farm Management

(苗木の栽培と圃場管理についての生産者向けマニュアル)

Training Guide – Papaya – Pest and Disease Management (病害虫管理についての生産者向けマニュアル)

Training Guide – Papaya – Harvest and Post Harvest ( 収穫と収穫後の取り扱いについての生産者向けマニュアル )

Farm Hygiene Poster

(圃場の衛生管理に関する GLOBALGAP の管理点と適合基準をイラスト化したポスター)

Hygiene at Harvesting and Produce Handling Poster

(収穫時と収穫後の取り扱いの衛生管理に関する GLOBALGAP の管理点と適合基準をイラスト化したポスター)

## (c)講習の開催回数・時間

1回目:GAP 全般(圃場の選択、種苗の管理、施肥など)

2回目:農薬の適切な管理

3回目:農場における衛生、収穫時と収穫後の農産物取扱いにおける衛生

という内容で開催された。

講習は1回当たり4時間ほどであり、計12時間となる。

## (d)研修費用

初年度の研修費用はプロジェクトから出されている。来年度からの技術指導の費用については、プロジェクトが作成した教材を使い、来年度から内部で自分達で他のメンバーや新入りメンバーたちを指導することにより人件費を抑える予定になっている。

参考:内部管理システム担当者向けの講習

また、組合の事務局担当者である内部管理システム担当者向けに以下の講習も実施された。 講師

生産者向け講習の講師と同じ

テキスト

1. EurepGAP Option 2 – QMS Training Material

団体農場管理マニュアルを生産者自身が構築するための教材。農場管理システムの要素について6つの講習に分けて解説している。それぞれの講習で講師による説明があり、講義後、習ったことを自分のグループにおいて考え、システムを構築することが毎回宿題として出される。やった宿題は次の講習で見直された上でその団体の農場管理マニュアルの一部となる。6回の講習にわたってこれが行われ、全ての講習が終わったときには団体の農場管理マニュアル(Quality Management System Manual)ができ上がっている仕組み。

## 2.EurepGAP Option 2 Progress Monitoring Tools

プロジェクト内部で使用しているモニタリングシート。GLOBALGAP の団体認証に向けての団体レベルの準備項目とメンバーレベルでの準備項目がそれぞれ 2、3 ページほどにまとめてあり、これにチェックを入れることで準備の完了具合が一目でわかるようになっている。このモニタリングシートに全てチェックが入った団体は、この文書の巻末にある「ファイナルチェック」シートに基づいて最終チェックを行う。この「ファイナルチェック」シートにはGLOBALGAP の基準自身には明記されていなくても GLOBALGAP 審査で審査員がチェックしてくる重要事項がリストアップされている。例えば、農薬保管庫の在庫台帳に記録されている出庫の日付と数量が農薬散布記録の日付と使用量と一致しているかどうか。これをチェックすることによって記帳の内容の信憑性が判断できる。

### となっている。

講習の開催回数

農場管理システム担当者レベルでは6回開催された。

#### 研修時間

研修費用

農場管理システム担当者の研修時間は上記の生産者コース 12 時間 + 管理システム担当者コース 18 時間の合計約 30 時間である。管理システム担当者コースの講習時間は 18 時間だが、各講習の後には宿題が出され、受講者は次の講習までに宿題をやってこなければならない。ひとつひとつ団体におけるルール、手順、方針をメンバーと検討した上で各必要があり、コンピューターを持っていない受講者が大半なので、たいていの受講者はノートに手書きで行っている。6 回の講習が終わる頃にはノート一冊 (20~25 ページほど)にびっしり手書きのルールが書かれている。これがタイプ・印刷されて受講者に渡され、団体の農場管理マニュアルとなる。宿題に費やす時間は人によって差があるが、どの受講者も1回最低3時間は宿題をするのに費やしている。したがって研修時間は18時間でも宿題を行う時間を含めると36時間以上になる。

生産者向け講習と同じ。

#### 参考:内部監査員向けの講習

内部監査員養成のために以下の講習も実施された

内部監査員は生産者コース 12 時間 + 監査コース 16 時間の合計約 28 時間である。

#### 5)認証取得後の生産者の意欲の維持

輸出開始への期待が認証取得後の生産者の意欲を維持している。認証取得後は特に研修会等のようなものは行っていない。

#### 6) 認証取得にかかった費用

認証取得にかかった設備投資などの初期費用は、高価な資材の購入などはせず、簡単に手に入るものでまかなったためほぼゼロである。かかったのは時間と労力である。

費用をかけないで準備した事例として、

農薬保管庫がないメンバーは空のドラム缶を改造して保管庫にした。(図9)

### 図9 ドラム缶を利用した農薬保管庫



トイレは藪を一部刈ってできた空き地スペースに穴を掘り、板を二枚かぶせて固定して足場を作ったもの。周りは藪を残しておくのでプライベートスペースが保たれる。穴を深めに掘るのでにおいも虫もない快適なトイレになる。

手洗い設備は大きなバケツに蛇口をつけた。(図10)

図 10 バケツを改造した手洗い設備



身の回りの資材を使い圃場に標識を立てた。(大き目の石にペンキで表示を書いたり、木の板に表示を書いて圃場の角に立てたり、などメンバーによってやり方はそれぞれである。)

記帳の用紙も、コピーせず手書きでノートに枠を書いて、正しく書けていれば農場管理 システム担当者のサインをもらえる。サインをもらったページは団体の正式な記帳用紙 とみなされる。このやり方によってコピー費用も節約できた。

農薬の空容器はドラム缶に穴を開け、中に網を入れたミニ焼却炉で団体全員の空容器を月1回(多いときは2回)燃やす。このドラム缶焼却炉は完全燃焼なのでほとんど煙が出ず焼却後の残りかすも、ほとんど出ない。産廃に出すと高くつくが、この方法だと空のドラム缶を調達する以外費用はかからない。オリジナルのデザインはイギリスで作成され、ガーナで適応バージョンが考案された。(図11)

図 11 ドラム缶を利用した焼却炉





審査費用はプロジェクトが負担した。来年からは自分達で審査費用を負担する必要があるが、輸出による利益から費用が捻出できる予定である。

## (7) GLOBALGAP 認証への行政機関の関わり

パパイヤはパイナップルと違いガーナの輸出奨励作物ではないため、行政の直接的な支援はなかった。プロジェクトに対しても、パパイヤに関しては行政による費用の援助はなかった。

## 7) GLOBALGAP 団体認証取得後の取組内容

## 1)団体におけるリーダー

団体におけるリーダーは、組合長である。選挙において選出され、任期は3年となっている。 リーダーの役割としては、以下の取り組みを行っている。

- ・参加メンバーの GAP 基準遵守の監督
- ・内部監査の準備
- ・内部監査時の不適合の調査
- ・新規メンバー参加時の監査
- ・上記新規メンバー監査の不適合調査
- ・生産者に対する制裁措置の追跡調査
- ・外部審査のための審査機関との調整
- ・生産者登録の更新

## 2) 役割分担に基づく農場管理マニュアル

農場管理マニュアルは上記講習で作成した Quality Management System Manual である。記帳の際の記入事項と記入方式はマニュアルで定められているが、マニュアルに定められている記入事項と形式さえ満たしていれば、マニュアルに添付されている用紙を必ずしも使用しなくてもよい。自分でノートに表(記録書式)を書いて記入してもよく、その際は、表を作った時点で農場管理システム担当者に記入前にページを確認してもらい、認可のサインをもらうことが必要である。

マニュアルで定めた記帳が必要な書類は下記の通り。

- ・リスク検討表
- 農場登録票
- ・入会申込書
- ・ごみと汚染源の識別表

- ・農作業記録
- ・施肥記録
- ・防除記録
- ・病害虫観察表
- ・農薬在庫記録
- ・肥料在庫記録
- ・機械整備記録
- ・秤量器校正記録
- ・トレーサビリティ記録
- ・使用化学物質リスト
- ・残留農薬検査記録
- ・苦情受付票
- ・内部監査報告書
- ・是正措置報告書
- ・訓練記録

## 3)マニュアルに定められている内容を実行するための取組

マニュアルを実行するため、6(3)の導入手順に従い、指導員が7(2)に記載されている各種帳票の書き方の研修を行い、生産者がマニュアルを実行する手助けを行っている。記帳した帳票類の確認は内部監査にて行われている。

また、年に1回は農場管理マニュアルの規定に従って、マニュアルの改訂が行われる。その際、現状にそぐわなくなったルールや方針などが改訂され、常に実施するのに適切なマニュアルの内容が保たれる。

#### 4)情報共有

グループ事務局内及び事務局と農業者間の情報の共有は月に1回ミーティングを開いて連絡 事項を伝えている。また、グループを構成している各生産者内での情報共有は非公式の寄り合 いや話し合いでのお互いの情報交換により行われている。

#### 5)内部監査

内部監査員は、団体の生産者のうち、大学の農学部を出ており、プロジェクトによる内部監査員の研修を受けた人物がなっている。内部審査を行う時期は1年に1回であり、去年は9月に行ったので、今年も去年と同じ9月に行う予定である。内部監査はGLOBALGAPの規定により全農場が対象となっている。

#### (8)認証取得の効果について

## 1) GLOBALGAP 取得による具体的な効果

GLOBLGAP 認証取得による効果は、まず農薬の管理が以前と比べてきっちりしたことがあげられる。さらに組合員の記帳が向上した。今では全員きちんとした記帳を行っている。生産コストの増減は特になかったが、品質は向上した。

#### 経営改善

ガーナにおいてパパイヤの生産・輸出はこれまでにない取組であったため、取引先への信用 確保の面において GLOBALGAP 認証取得は役に立っている。認証取得により取引単価の高い 出荷先を確保できたことにより経営改善が行われている。

#### 生産コスト

肥料や農薬などの資材管理についてきちんと記帳することにより無駄がなくなり適正な使用ができるようになった。また無駄な資材在庫が削減されたが、生産コストの大きな増減はあまり見られなかった。

#### 品質向上

肥料を適当ではなく、指導されたどおりの配合率とタイミングと分量できちんと施肥するようになり結果として品質がよくなった。圃場の衛生を保つため、落ちた果物をまめに拾うようになったので、結果的に病気の発生が減り農産物の品質が向上した。

#### 労働安全の向上

保護服の着用が徹底され、労働者の健康面が改善された。それまではマスクも防護服も何も 着用せず上半身裸で農薬を散布する光景が普通であったが、今では全員がマスク、上着、グロ ーブ、長靴、ズボン、を必ず着用している。労働者の賃金や労使関係は以前と変わっていない。 応急処置セットが完備されたので、怪我をした場合ちゃんと手当てができるようになった。そ れまでは農場に応急処置セットがあることはまずなかった。これは労働者に歓迎されている。

#### 環境保全

間伐したパパイヤの木を圃場から除去したり、落ちたパパイヤをこまめに拾ったりすることで圃場を清潔に保っている。除草も以前よりまめに行うようになった。これらにより圃場のごみが以前より格段に減少した。GLOBALGAP認証農場は圃場周りの木を不必要に切らないことになっているので、木をできるだけ残すようにしている。

## 2)バイヤーから求められた GAP 以外の認証

バイヤーからの GLOBALGAP 以外の認証取得要求はフェアトレードが議題にあがり、現在フェアトレード認証取得に取り組んでいる。フェアトレードは上乗せ価格がつくので、収入増が期待されている。

これらの講習の主催者について、Care International という NGO と WAFF (West African Fair Fruits Ltd.)という民間会社が共同でフェアトレードの講習を開催している。

## 第二章 GLOBAL GAP 以外の GAP に取り組む諸外国の事例

#### タイ王国

タイにおける GAP については QGAP とタイ GAP の2種類がみられた。

QGAP は国が運営しており、開始から 5 年が経過している。タイ GAP は民間が運営しており、2008 年中の完成に向けて現在開発中である。

### 調査先応対者

QGAP、タイ GAP: Chusak Chuenprayoth (タイ GAP 事務局)、Chainarong Rattanakreetakul (カセサート大学 KURDI 教授) Roongnapa Korpraditskul (カセサート大学農学部教授)

調査団:木立真直(中央大学商学部教授) 丸田洋(有限会社穂海代表) 畠山耕一(八幡平農業改良普及センター農業普及員) 青木準一(日本 GAP 協会)

調査期間:平成20年2月20日~23日

#### 1 QGAP について

## (1) GAP の基礎情報

名称:QGAP

運営団体:タイ農業省農業局

対象作物:野菜、果樹、トウモロコシ(米には専門の部署があり、他の作物を扱う部署と 異なるため米は対象となっていない。)

認証単位:個人認証。(団体認証のしくみはない。)

認証件数:30万件超(うち、果樹が最も多く、野菜は約10万件)

運営経費:国費

GAP 作成者及び内容:農業省がチェックリスト(非公開、100項目以上)を作成

他国の GAP との関わり:なし

#### (2)政府の取組方針

海外での競争力を持ち、国内に安全な農産物を供給することが目標。

輸出向け生産者はなるべく QGAP を取得するよう推奨している。

## (3)審査認証システム

## 1)審査認証機関

農業省

#### 2)審査認証機関の独立性

GAP 作成・運用を行っている農業省の部局が審査認証もおこなっており独立していない

### 3)審査員

現在 2,000 名以上(うち約 1,500 名が公務員、残りは農業省と契約している民間人)。審査員の養成は農業省が行っており、2 週間のトレーニングの受講と 1 ヶ月の審査員との実習(審査のオブザーバー)が必要。

### 4)審查内容

審査は申込書を提出した農家に対して実施している。チェックリストに基づき、農薬・肥料の使用履歴の確認や農場審査を実施。通常、審査には半日以上かかる。

なお、チェックリストは非公開なので、生産者は審査に合うよう事前に農場を改善するという

ことはできない。

## (4) 生産者への導入

## 1)普及・指導する者

審査合格のための現地指導は特に行われておらず、QGAP の指導者はいない。

## 2)普及率

5%程度。(農家世帯数 560 万に対し認証数 30 万)

### 3)生産者負担の審査認証の費用

無料(国が出費)

## 4)導入決定から認証を受けるまでの期間

審査・認証の事務的に要する時間は特に基準はなく、審査員によっても変わってくる。

## 5)導入による効果

QGAP 認証取得生産者への聞き取りによれば、農薬の安全性に対する意識の向上、具体的には農薬の散布や保管について注意するようになったことが導入効果としてあげられる。

## (5)その他

## 1)認証マーク

消費者向け認証マークを表示することができる(図12)





## 2)他基準との関わり

農業省では QGAP とタイ GAP を将来的には一本化したいという意向を持っている。なお、 農作物にかかる基準として、タイ厚生省が管轄している食品安全基準や民間の有機基準も存在 するが QGAP と直接の関わりはない。

## 2 タイ GAP (現在開発中) について

## (1)タイ GAP の基礎情報

名称:タイ GAP

運営団体:タイ GAP 事務局(カセサート大学教員を中心とする)

対象作物:野菜、果樹(将来的には穀類も考えている)

認証:団体認証と個人認証

認証件数:0件(現在開発中であるため)

運営経費:工業省の中小企業振興局からの補助金。現状は3,000万バーツ(日本円にして約

1億円)

GAP 作成者及び内容: 大学教員が作成。内容は GLOBAL GAP をタイ語に翻訳したものを参考とし、ほぼグローバル GAP と同様のプレミアムと少し基準を緩く

したオーディナリーを作成(視察時点で 95%翻訳済み)。数年間はプレミアム(輸出向け)とオーディナリー(国内向け)の2本立てで進

み、中長期的にはプレミアム一本にまとめる方針。

他国の GAP との関わり:プレミアムは 2008 年 10 月に GLOBAL GAP との同等性取得を目指し作業が進められている。

### (2)政府の取組方針

政府としては農業省が推進している QGAP の普及が第一である。将来的には QGAP とタイ GAP の一本化を希望している。

## (3)審査認証システム

#### 1)審査認証機関

MASCI (タイ国管理システム認定機構)が予定されている。この MASCI はタイ工業省所管の外郭団体であり、GLOBALGAPの審査も手がけている。今後は MASCI に加え、GLOBALGAPの審査認証業務を行っている5つの民間審査認証機関もタイ GAPの審査認証機関に加える予定である。

## 2)審査認証機関の独立性

第三者による審査認証制度であるため、独立性は保たれている。

#### 3)審査員

約3名(MASCI)。各審査機関が独自に養成していく予定。

#### 4)審査内容

GLOBALGAP と同じ、チェックリストによる書類審査と農場の現地審査を予定。

## 5)審査認証機関の審査

GLOBALGAP の審査認証が行えることを審査機関の要件としていく方針。

### (4) 生産者への導入

### 1)普及・指導

タイ GAP 本部のスタッフが行っているが、特に指導員という資格はない。指導料金は請求しない。

### 2)普及率

0% (現在開発中であるため。)

#### 3)生産者負担の審査認証の費用

現在開発中のため設定していない

## 4) 導入決定から認証を受けるまでの期間

開発中のため不明

## 5)導入による効果

開発中のため不明

## (5)その他

## 1)認証マーク

タイ GAP の口ゴはすでに登録されているが、認証マークはまだない。認証マークについて、 消費者向けではなく基本的に BtoB (業者間取引)のみにしていく予定。また、認証マークにバ ーコードをつけて栽培履歴を検索できるシステムにする予定である。

## 2)他基準との関わり

タイ GAP としては、QGAP と統一したい意向がある。

参考:タイにおける GLOBALGAP 取得の例

- 1)生産者負担の審査認証の費用
- ・ 団体認証の場合、買い手側の輸出企業が 6 割、ドイツ政府の開発援助機関である GTZ (Deutsche Gesellschaft fur Technische Zusammenarbei、ドイツ開発技術公社) が 4 割を負担
- ・ 個人認証の費用は2万バーツであり、審査により補助金取得が可能である。
- 2)導入決定から認証を受けるまでの期間

約6ヶ月

3)導入による効果

取引先の輸出業者がGAP導入を推進し、それに応えた生産者からは全量買い上げるという 形になったため、安定的に収入が得られるようになり、実際に収入増につながった。

#### 中国

調査先応対者:楊志剛(中華人民共和国国家認証認可監督管理委員会登録管理部食品農産 物認証管理処処長 》 徐愛軍(北京市小湯山国家農業科技園農場長)

調査団:陳廷貴(九州大学大学院農学研究員 ) 畠山耕一(八幡平農業改良普及センター農

業普及員 ) 武田泰明 (日本 GAP 協会事務局長 )

調査期間:平成20年1月31日~2月2日

## (1)GAPの基礎情報

名称:良好農業規範(通称 ChinaGAP、2005 年 12 月 31 日発表、2006 年 5 月 1 日施行)

運営団体:中国政府 中国国家認証認可監督管理委員会11 (CNCA: Certification and

Accreditation Administration of The People's Republic of China、以下 CNCA)

対象作物:ChinaGAP の対象は、GLOBAL GAP と同じ構造でブロック分けされている。( 表 1)

認証単位:団体認証と個人認証

認証件数:222件(2008年1月現在)

運営経費:国費

GAP 作成者及び内容: CNCA により作成されている。作成には行政機関の職員、国内外有 識者、認証機関、生産者が関わっている。ChinaGAPの内容は「良好 農業規範認証の実施規則」に規定されている。内容となる管理点は必 須項目、重要項目、努力項目の三つに分れており、必須項目は危害分 析と重要管理点(HACCP)及び食品安全と直接かかわる動物福祉の全 ての食品安全に関する項目、重要項目は必須項目に準ずる環境保全、 農業生産者福祉、動物福祉の基本要件に関する項目、努力項目は必須 項目と重要項目に準ずる環境保全、農業生産者福祉、動物福祉の持続 改善措置に関する項目である。

<sup>11</sup>中国国家認証認可監督管理委員会:中国における認証認可業務を監督・管理する機関。中 国国務院から業務の委託を受けている。

表 1 管理点及び適合性規範の範囲

	作物基礎ブロック	槖	设物	各認証対象品目
		果物	と野菜	各認証対象品目
		茶		各認証対象品目
		豚		各認証対象品目
ᄬᆌᆉᆉᅑᅼᄗᆢᄼ	家畜家禽基礎ブロック	į	家禽	各認証対象品目
│ 農場基礎ブロック │(全農場に適用)		牛·羊	乳牛	各認証対象品目
(,	水産基礎ブロック	工業	化養殖	各認証対象品目
		生け	<b>簀養殖</b>	各認証対象品目
		囲い込	込み養殖	各認証対象品目
		灘·底播	·吊養養殖	各認証対象品目
		池	養殖	各認証対象品目

認証の際、各ブロックと認証対象基準を組み合わせる。例えば、米を認証する場合、農場基礎ブロック、作物基礎ブロック、穀物の認証基準を組み合わせて審査する必要がある。 良好農業規範認証の実施規則より作成

他国とのGAPの関わり:GLOBALGAP事務局と2006年4月に「ChinaGAPとGLOBALGAP のベンチマーキングに関する覚書」を調印し、同等性取得の手続きを進めている。また、チリ GAP、タイ GAP など多くの国とスタッフの出向などの交流を行っている。

### (2)政府の取組方針

- ・中国の農業生産総合能力の向上や持続的な農業の実現が目的。
- ・今後の目標としては、特に認証数等の具体的数値目標はなく、政府としてはビジネスとして ChinaGAP 導入が進むことを期待している。
- ・ChinaGAP は生産現場から農産品・食品の品質・安全をコントロールする、国際的にも広範に通用する有効な手段であり、農産物・食品の安全を確保する前提だと考えられている。
- ・ChinaGAP の推進は、農業標準化、モデル地域建設、農業総合生産能力の全面的な向上に向けた有効な道筋であり、社会主義新農村建設においても重要とされている。
- ・対日輸出に関して、ChinaGAP はポジティブリスト制度への積極的な対応であり、輸出向 け農産物の生産現場管理に重要だという認識である。

### (3)審査認証システム

#### 1)審査認証機関

16 社、すべて民間企業である。

### 2)審査認証機関の独立性

ChinaGAP 運営、審査認証、審査認証機関の審査認証、のそれぞれについて別の組織が行っており独立性が保たれている。

#### 3)審査員

約400名(2008年1月現在)。審査認証機関の職員がなる。中国認証認可協会<sup>12</sup>(CCAA: China Certification and Accreditation Association)による全国統一試験があり、その試験合格が審査員資格の要件になっている。なお、審査員養成にあたっては、CNCAが教材作成、講師派遣をしている。養成のための費用は認証機関が負担し、職員を受講させている。

**4)審査内容**審査はチェックリストに基づいて行われる。また、認証レベルは、一級認証と二級認証の2段階あり、合格のためには以下の要件を満たすことが必要である。

一級認証… 適用ブロックの中で適用する全ての必須項目要件への適合 全ての適用ブロックの中で適用する重要項目への 95%以上の適合 努力項目については最低適合割合の設定なし。

二級認証… 適用ブロックの中で適用する必須項目への 95%以上の適合 ( ただし、 消費者・労働者・動植物の生命と環境に厳重な悪影響をもたらす可能性 のある管理点は全て適合すること。)

重要項目及び努力項目については最低適合割合の設定なし。

### 5)審査認証機関の審査

中国合格評定国家認可委員会<sup>13</sup> (CNAS: China National Accreditation Service for Conformity Assessment) が行う。

## (4) 生産者への導入

#### 1)普及・指導

2008年までは試験段階ということで国がモデル地域を選定し、重点的に ChinaGAP の導入を行った。2009年から一般に向け全面導入する予定。

モデル地域は 2006 年 5 月に公表され、全国 18 の省、直轄市、自治区(北京市、遼寧省、吉林省、黒龍江省、江蘇省、浙江省、安徽省、福建省、江西省、山東省、河南省、広東省、陝西省、海南省、四川省、他)において ChinaGAP の導入が進められた。その中で、2007 年 1 月にはモデル企業が定められ、輸出食品原料生産企業など 286 社が指定された。

また、生産者への ChinaGAP 導入指導は、行政機関と審査認証機関のそれぞれが行っており、 指導の費用についても行政機関や審査認証機関が負担している。

指導員の育成は二段階に分けて行われている。まず、全国各省の出入境検験検疫局と質量技術監督局<sup>14</sup>の職員を対象に、CNCAと国家標準化管理委員会<sup>15</sup>(SAC: Standardization Administration of the People's Republic of China)が主催する認証機関、大学及び他の研究機関を講師とした指導員研修が行われる。この研修を受けた指導員が第一段階の指導員となる。

次に第一段階の指導員が講師となり、各省において所属する市や県の出入境検験検疫局<sup>16</sup>と 質量技術監督局の職員、龍頭企業<sup>17</sup>など大企業の職員を対象とした指導員研修を行い、現地に おける指導を行う第二段階の指導員を育成する。

行政機関のほかに、二段階目の指導員研修は認証機関など民間においても行われている。

### 2)普及率

中国の農家 2 億 5,222 万世帯に比べ、認証数は 222 件とかなり少ないためパーセンテージで

<sup>12</sup>中国認証認可協会: CNCA の所属機関、審査員研修機関の認可を行う。

<sup>13</sup>中国合格評定国家認可委員会: CNCA の所属機関、試験所・校正機関の認可を行う。

<sup>14</sup>質量技術監督局:中国における品質検査の行政機関のこと

<sup>15</sup> 国家標準化管理委員会:GB 規格の制定を主な業務とする機関。

<sup>16</sup>出入境検験検疫局:中国における検疫機関のこと

<sup>17</sup>龍頭企業:農業の産業化を牽引する地元企業のこと

表せるほど普及していない。

#### 3)生産者負担の審査認証の費用

認証農場の面積、農地の立地状況などによって、認証費用は変わる。

審査認証費用の内訳としては、申請費、審査費用、認証登録費がある。認証費用について、中国品質認証センター18(CQC)の例を示すと、

申請費用は 1 品目あたり 600 元である。ただし申請費用は上限が定められており、最高 3,000 元となっているため、例えば 10 品目申請した場合、600 元  $\times$  10 品目で 6,000 元ではなく、上限の 3,000 元が適用される。

審査費用は審査員一人当たり一日 3,000 元、一審査当たり 2 ~ 6 人の審査員が担当する。

別途交通費・食費・宿泊費を負担するとともに残留農薬検査の費用が必要である。

認証登録費用は1品目あたり1,000元かかる。認証登録費用も上限が定められており、最高5,000元となっている。審査・認証費用トータルで1農場あたりおおよそ20,000から30,000元程度になる。

その他、海外の農場からの申請は別途通信費として1品目あたり600元が加算される。さらに中国語以外での申請は別途翻訳料として1品目あたり1,000元が加算される。(表2)

表 2	審査費用
-----	------

基本経費			追加経費	
申請費(1品目	審査費用	認証登録費	海外農場の申	中国語以外で
当たり)	(審査員1人/1日		請の場合(1品	の申請の場合
	当たり)		目当たり)	(1品目当た
				IJ)
600 元	3,000 元 ( 約	1,000~5,000 元	600 元 ( 約	1,000 元 ( 約
上限 3,000 元	45,000 円)	(約15,000~	9,000円)	15,000円)
(約9,000、		75,000 円)		
45,000 円)				

ヒアリングより作成

審査を受ける際に国からの統一した補助金はないが、一部の地方政府が補助金のような資金を提供している。例えば、陝西省政府では2007年中にChinaGAP取得した企業に対し、認証取得やコンサルティングに関する費用を全額補助している。北京市政府の例では、一級認証取得の場合、認証費用全額を政府が補助し、二級認証取得の場合、70%を政府が補助している。

#### 4)審査申込から認証を受けるまでの期間

標準的な期間としては2~3か月。

#### 5)導入による効果

CNCA の見解によると、防疫など技術面と管理面において効果が現れ、不良品率が低下し、輸出拡大につながっているという。

## (5)その他

1)認証マーク

<sup>18</sup>中国品質認証センター:中国における審査認証機関の1つ

認証機関から ChinaGAP 認定書を取得してから以下の範囲で認証マークを使用することができる。(図 13)

小売ではない農産物の包装

農産物の販促資材

ビジネス活動

小売商品の包装(茶、果物及び野菜において農産物取扱い施設までの全工程が認証範囲 に含まれる場合に限る)

また、マークを使用する際、同じ比率であれば拡大や縮小することができるが、認められているが、色や形の変更は認められていない。

参考:1 枚当たりマーク使用費 10mm マーク 0.05 元(0.75 円), 20mm マーク 0.15 元(2.25 円), 30mm マーク 0.25 元(3.75 円), 45mm マーク 0.35 元(5.25 円), 60mm マーク 0.45 元(6.75 円) である。

図 13 ChinaGAP 認証マーク





一級認証マーク

二級認証マーク

#### 2)他基準との関わり

中国には緑色食品市場認証、無公害農産物認証、有機認証などがあるが、これらの認証制度と ChinaGAP に関わりはない。

#### 参考:導入事例

北京市政府の推進事例

北京市における ChinaGAP 取得のための事業費は 400 万円程度計上され、おおむね 5 割補助をしている。補助金の対象はソフト及びハード両面あるが、簡易トイレは対象外といった規定がある。ChinaGAP 一級取得の場合は、市政府が認証費用を負担し、他の補助事業とのクロスコンプライアンスがかかっている。

2006年9月、第一次モデル企業として、応募11企業のうち5社を選定している。選定要件としては、企業内で部門毎に管理されており、農業生産技術を専門とする職員と農産物安全を専門とする職員の配置が可能であること、輸出志向があること、商品の品質水準が一定以上であること、区内・市内において流通商品がある程度の知名度を持っていること、などの基準で選定された。

第一次モデル企業として選定された北京東昇方圓農業種植開発有限公司では、2007 年 4 月に ChinaGAP 認証を取得しており、認証品目は、小松菜・ブロッコリー・キャベツである。当該 企業の出荷先は、国内向けでは大型量販店、外食企業等であり、海外向けでは欧州が 6 割、残りが東南アジア、日本及び韓国となっている。

当該企業では、2006 年から、欧州向けの商品でトレーサビリティシステムを整備しており、 ChinaGAP 取得に当たっては、1年間の準備期間をおき、2006 年に北京市質量技術監督局主 催による ChinaGAP 研修コースに参加した後、審査を受け ChinaGAP を取得した。 農場事例(有限会社北京市小湯山現代農業科技模範園)

有限会社北京市小湯山現代農業科技模範園は北京市昌平区にある農業団地に所在している。農場面積87へクタールであり、本農場の販売先については、北京市内の高級ショッピングセンター、隣接地区にある宿泊・会議・レストランを一体化したレジャー施設、量販店などに直接出荷しており、現状では輸出はしていないが将来的には輸出を目指している。

ChinaGAP の審査は 2007 年 6 月 13~14 日に現場審査が行われ、翌月に一級認証を取得した。認証対象は野菜が 30 品目、果物が 10 品目である。また、有機食品、緑色食品及び無公害食品 $^{19}$ の認証をすでに取得していたため、これらをベースに 1 年の準備期間をおきチェックシート等を活用して ChinaGAP 導入を図り、認証費用の負担額は 40 万円程度であった。

従業員向けに、認証後の勉強会を開いており、北京市や認証機関による外部勉強会を年に2、3回参加(1回あたり2、3日)内部の勉強会を年2回(1回あたり2,3日)行っている。

ChinaGAP 導入による変化として、食品の安全性について従業員の意識改革につながったことがあげられる。課題としては、中国では GAP 導入モデル企業しか ChinaGAP を知らないこと、バイヤーからは一定の評価を受けているものの実需者の認知度が低いことがあげられる。

体が認証を行っている。

<sup>19</sup>有機食品、緑色食品、無公害食品:中国における有機食品は中国国家環境保護局に所属する中国有機発展センターが管理しており、認証業務は民間審査機関が行っている。緑色食品は中国農業部の中国緑色食品発展センターが管理しており、政府が設立した委託認証機関で認証を行っている。無公害食品は中国農業部の傘下にある農産物品質安全センターが管理し、各自治

#### 韓国

調査先応対者: Choel Hi Lee (農村振興庁 ) Young Bong Yu (済州大学教授 ) Su Cheol Hwang (農政研究センター所長 ) Eun Cheol Choi (韓国農林部食品部 ) Dong Keun Cho (韓国農林部食品部 GAP 担当 ) Min Yong Lee (国立農産物品質管理院 消費安全課 GAP 担当 ) Byoung Chng Lim (国立農産物品質管理院消費安全課トレーサビリティ担当 ) Hyung Dal Park (国立農産物品質管理院消費安全課 ) Jung Sup Lee (農水産物流通公社園芸輸出部次長 ) Bong Gyu Kim (新世界 E マート 品質管理センターマネージャー ) Kyeong Won Park (農産貿易株式会社部長 )

調査団:中嶋康博(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授) 壽原克周(日本生活協同組合連合会産直担当) 金亨美(韓国生協研究所客員研究員) 横溝太郎(日本 GAP協会)

調査期間:平成20年3月2日~5日

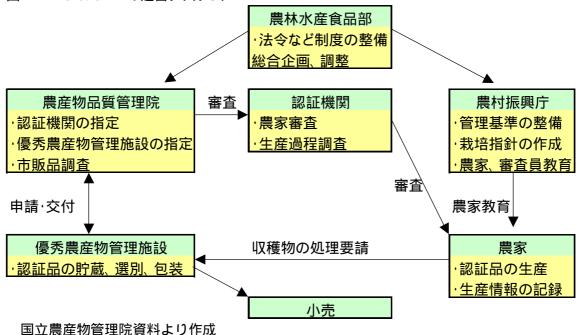
#### (1) GAP の基礎情報

名称:優秀農産物管理基準。(以下、「KoreaGAP」と表記)。

運営団体:韓国農林水産食品部20

農林水産食品部国立農産物品質管理院<sup>21</sup>が認証機関の指定、市販品の調査などを 実施、農林水産食品部農林振興庁<sup>22</sup>が管理基準の整備、栽培指針の作成などを行っている。(図 14)





<sup>20</sup>農林水産食品部:日本における農林水産省にあたる。2008年2月25日の政権交代により農林部から農林水産食品部に名称変更がなされた。

<sup>&</sup>lt;sup>21</sup> 農産物品質管理院:農林水産食品部に所属する機関。GAP 認証や親環境農産物認証の管理、 農林統計の整備などを行っている。

<sup>&</sup>lt;sup>22</sup> 農村振興庁:農林水産食品部に所属する機関。農村科学技術に関する研究・啓蒙・技術普及、 農村生活改善指導等の業務を行っている。所属する機関として韓国農業大学がある。

対象作物: 2006 年 1 月に農林部(現農林水産食品部)で 96 品目の標準栽培指針が告示された。 2007 年 4 月に方針は改正され 2008 年 3 月現在 100 品目。

品目は、米、麦、豆、いもなどの基礎食糧作物が10品目、エゴマ、緑茶などの特用作物が4品目、クコの実、高麗人参などの薬用作物が32品目、エノキやエリンギなどのキノコ類が10品目、唐辛子やニンニクなどの野菜が28品目、リンゴ、なしなどの果樹が16品目となっている。畜産・水産物には対象となっている品目はない。

認証単位:団体認証および個人認証。品目別に認証が行われる。

認証件数:認証数 634件(16,796戸)

うち、個人認証が 111 件(111 戸)17.5%、団体認証が 523 件(16,685 戸)82.5%。

(表3)

現時点で認証の多い品目は米、大豆、じゃがいも、茶である。

#### 表 3 KoreaGAP 認証生産者数推移

2003年	9戸
2004年	357 戸
2005年	965 戸
2006年	3,659 戸
2007年	16,796 戸

国立農産物管理院資料より作成

運営経費: 国費。GAP 運営経費として 2008 年度は約 47 億ウォン(約5億1,700万円)(表4)

表 4 農林水産食品部における GAP 予算 (2008)

優秀農産物管理施設23の整備等(農産物処理施設が GAP	16 億ウォン(約1億7,600万円)
基準に適合するための設備投資への補助)	
国が行うトレーサビリティシステム運営費(GAP農産物	11 億ウォン(約 1 億 2,000 万円)
は履歴追跡管理番号が義務づけられており、インターネ	
ットで栽培履歴の確認ができる)	
教育(生産者向け GAP 普及教育と審査員教育)と広報の	5 億ウォン(約 5,500 万円)
補助金	
審査機関関係(審査機関に対する審査補助金)	3 億ウォン(約 3,300 万円)
生産者支援(残留農薬・水質検査などの検査費の一部を	12 億ウォン(1億 3,200 万円)
補助)	
合計	47 億ウォン(約5億1,700万円)

ヒアリングより作成

GAP 作成者:農村振興庁が管理基準などを作成。

GAP の内容: GAP の管理基準は 110 項目あり、必須が 74、推奨が 36 の二段階となっている。 2003 年に農村振興庁において GAP 導入の研究が開始され、その際に

23優秀農産物管理施設:農産物品質管理院が指定した出荷施設、共同選果場にあたる。

GLOBALGAP (当時 EUREPGAP) が参考とされた。一生産者あたりの平均耕作面積が 40~70 ヘクタールあるヨーロッパと比較し、韓国の生産者は平均1.3 ヘクタールの耕作面積しかないため、GAP を韓国に導入するにあたり、GLOBALGAP との同等性を重視し基準を厳しくするか、普及を重視し基準を緩くして導入しやすくするか、方向性について議論されたが、最初から同等性を取得することはあきらめ、韓国にあった形に変えて導入されることになった。2004 年から 2005 年にかけて試験導入がなされ、2006 年から正式導入が始められている。

他国の GAP との関わり: 開発にあたっては、GLOBALGAP を参考にしているが、同等性は取得していない。しかし、今後は同等性取得に向けて取り組む予定。

### (2)政府の取組方針

- ・食品の安全性確保、輸出拡大、中国からの輸入品への対抗が重要な目的。
- ・国として、2013 年までに GAP 認証農家を 10 万戸(約 10%)育成、優秀農産物管理施設を 500 カ所指定、することを目標としている。
- ・2010年に親環境農産物(減農薬)との統合を予定。
- ・認証機関の指導・監督の強化、優秀農産物管理施設の運営実態などの検査態勢の強化に 取り組む

#### (3)審査認証システム

#### 1)審査認証機関

生産者団体である農協中央会、輸出促進機構である農水産物流通公社<sup>24</sup>、小売業者である E マート、大学関係機関の朝鮮大学産学協力団など計 32 の団体が審査認証を行っている。

## 2)審査認証機関の独立性

審査認証機関は国立農産物品質管理院が審査認証をしており、GAPの管理基準の作成、審査認証、審査認証機関の審査、のそれぞれが別組織で行われており、独立性を保っている。

#### 3)審査員

現在、約370名。審査認証機関の職員が審査員になっている。審査員養成は農村振興庁がおこなっており、農村振興庁に所属している機関である韓国農業大学で審査員の教育が行われている。2007年は316人が5日間の研修を受けている。

研修は、審査方法の他、土壌・水質のサンプル採取の方法などについて行われている。

審査員の資格は、4年制農業大学卒業、2,3年制農学系大学卒業かつ農産物品質管理業務経験2年以上、農林環境技術士の資格所有、農業関連企業・大学の農水産物品質管理業務経験3年以上、農産物品質管理士資格所有、の5つのうちいずれかが必要である。

審査員になった後の公的な研修はこれまでなかったが、2008年からは規則を定め実施していく予定。

参考:審査機関の例 農水産物流通公社

\_\_\_\_\_

<sup>&</sup>lt;sup>24</sup>農産物流通公社:1968年設立、政府 100%出資。社員 580名、GAP 認証は園芸輸出部が総括している。11カ所の支社があり、22名の審査員がいる。GAP審査は輸出農産物のみ行っている。

審査員はすべて正社員であり、年 1 回の研修を全員が受けることになっている。 公社本部では、認証事業の総括、審査計画、審査員教育、審査判定委員会の開催、 認証書発行などを行っている。実際の審査(書類審査及び現場審査)の実施は支社 が行っている。2007年の認証実績は8品目、27件(生産者数431名)である。

バイヤーが審査員の資格を取得している。2007年は21件の認証を行い、2008年 には 55 件申請予定である。2008 年中に全取引生産者のうち 2% を GAP 生産者と することが目標。2013 年には政府の目標にあわせて 10%を目標にしている。現在、 農産物の 5~6%が PB 商品でそのうちの 6%が GAP 認証商品である。

#### 4)審查内容

審査内容は大きく書類審査と現地審査に分けられる。書類審査では栽培記録と圃場の土壌及 び水質検査、残留農薬検査の結果が審査される。現地審査では管理基準に適合しているか審査 が行われる。

以上、GAP 認証の基準をまとめると、

管理基準 (チェックリスト) に適合していること、

優秀農産物管理施設で出荷調整すること、

農産物履歴管理登録(トレーサビリティ)を行うこと、

が条件となっている。

GAP 認証品について、抜き打ちによる調査(生産段階調査と市販品調査)が行われている。 生産段階調査は半年に1回以上、認証品の生産・出荷過程の認証基準への適合性が調べられ る。調査は認証機関の審査員が行い、違反を発見した際には国立農産物品質管理院に通報し、 国立農産物品質管理院が処罰する。

市販品調査も半年に1回以上、量販店などで販売中の認証品が調査対象となる。こちらは国 立農産物品質管理院が調査を行い、違反を発見した際には品質管理院管轄の出張所に通報され、 処罰される。(表5)

表 5 市販品調査の処分基準

処分の対象	処分の基準			
処力の対象	一次違反	二次違反	三次違反	
義務になってい				
る事項が表示さ	是正命令	表示停止1ヶ月	表示停止3ヶ月	
れていない場合				
中身と異なる表				
示又は誇張され	表示停止1ヶ月	表示停止3ヶ月	   認証の取り消し	
た表示をした場	次が停止19万	12.7万円 3.7万	心血の扱う用し	
合				
GAP 基準に違反	表示停止3ヶ月	   認証の取り消し		
した場合	次が停止 3 7 万	心皿の扱う用し		
GAP 認証品でな				
いものを GAP 認	認証の取り消し			
証品と表示した	心皿の扱う月の			
場合				
GAP 認証品の生				
産が困難な事由	認証の取り消し			
が発生した場合				

ヒアリングより作成

### 5)審査認証機関の審査

審査認証機関の審査は国立農産物品質管理院が行っている。認証機関の認定に当たっては、 審査が ISO ガイド 65 準拠で行われ、5 名以上の審査員が在籍していること(うち2 人は正社員であること)

審査に必要な検査を行う分析室があること

が審査機関の資格となっている。なお、2008年から審査認証機関に対し、3ヶ月に1回、国立 農産物品質管理院による監査が入る予定になっている。

#### 6)優秀農産物管理施設の指定

KoreaGAPでは、生産後の衛生管理が重要と認識しており、収穫後の安全性を確保するため優秀農産物管理施設(共同選果場)での出荷調整が必須とされている。KoreaGAP管理項目 110のうち、32 が選果場に関する項目となっている。GAP 農産物の流通には国立農産物品質管理院の指定を受けた優秀農産物管理施設の利用が必要となる。

この優秀農産物管理施設は 06 年には 183 カ所、07 年には 316 カ所が指定されており、08 年は 350 カ所、13 年には 500 カ所を目標としている。指定においては、衛生管理が優秀であることが求められており、規模の大小は問われない。また、農林水産食品部では優秀農産物管理施設に対する指定のための支援を行っており、06 年には 11 カ所、07 年には 21 カ所に補助金の支給が行われ、08 年には 33 カ所を予定している。

### 7)トレーサビリティ

KoreaGAP の場合、GAP 認証生産物はトレーサビリティを行うことが必須とされている。 GAP 認証生産物にはすべて GAP 認証番号が付けられ、KoreaGAP のホームページ (http://gap.go.kr:8084/jsp/index.jsp) で追跡が可能になっている。トレース内容は、 生産者名、 生産者住所、 生産者電話番号、 栽培履歴、 優秀農産物管理施設名、 優秀農産物管理施設名、 優秀農産物管理施設名、 販売店電話番号、 ស売店名、 販売店住所、 販売店電話番号、となっている。

### (4) 生産者への導入

#### 1)普及・指導

農村振興庁は農業技術センター25の職員を指導者として育成し、普及・指導に当たっている。この農業技術センターは各自治体に設置されており、職員の総数は7,000 名程度であり、既に2万人の生産者に対してGAP 農産物管理要領の教育を行っている。GAP 導入に関する生産者への教育は当初24時間の教育が行われていたが、現在では5時間に短縮されている。

輸出をしている生産者によっては海外から専門家を呼び、より高度な研修を受けているところもある。

例えば、農産物流通公社の例では、政府からの GAP 普及補助金を用いて 2004 年から 2005 年にモデル事業を実施し、IPM 講習などの生産者指導を無料で実施していた。モデル事業が終了した 2006 年以降も費用の 2 割を生産者負担、残りを公社負担として実施している。

#### 2)普及率

韓国全体に占める GAP 認証生産者は 1.6%( 韓国の全生産者数 125万戸、認証生産者数 16,796戸)、国として GAP を 2013 年には 10%まで普及させる目標を立てている。

#### 3)審査認証費用の生産者負担

\_

<sup>&</sup>lt;sup>25</sup>農業技術センター:農村振興庁に所属する機関。日本における農業改良普及センターにあたる。

審査費用と審査員の旅費実費、各種分析費用からなる。

審査費: 5万ウォン(約5,500円)。(国から審査機関に審査機関運営補助金が出ている ため定額。)

旅費実費:30~40 万ウォン(約3万3,000円から4万4,000円) 標準的である審査員

2名×1泊2日の場合

分析費:30~40 万ウォン程度(約3万3,000円から4万4,000円)。(残留農薬、水質、

土壌に関する分析)。分析費用については国から半額の補助金が出る。

#### 4)審査申込から認証を受けるまでの期間

審査申込から認証書発行まで標準42日間となっている。

### 5)導入による効果

国立農産物管理院の見解によると、収穫後の衛生管理体制が向上し、農産物の国際競争力の強化に寄与しているという。

### (5)その他

#### 1)認証マーク

消費者向けのものがある。マーク表示には、認証機関名、認証番号、産地、品目名、重量・個数、生産者名、履歴追跡番号、GMO表示が記載される(図15)。商品包装や店内のPOPにもGAPを謳う表示が行われている。

認証マークに使用料はかからない。



図 15 KoreaGAP 認証マーク

#### 2)他基準との関わり

韓国には親環境農産物という農産物の認証制度があり、有機栽培や減農薬栽培の基準を定めている。GAP は 2006 年からと歴史が浅いのに対し、親環境農産物は 10 年以上の歴史があるため認知度が高く、小売店においてもアイテム数が多い。GAP はこの親環境農産物の延長上に

あると考えられている。親環境農産物は、有機農産物、転換期有機農産物、無農薬農産物、低農薬農産物に分かれ、2010年には低農薬基準を廃止し、GAPとの統合が検討されている。この親環境農産物の認証管理は KoreaGAP の認証管理と同じく国立農産物品質管理院が担当している。

### 参考: 導入事例

農産貿易株式会社

農産貿易株式会社は、パプリカ輸出のため生産者の共同出資により 1999 年 7 月に設立された。所在地は韓国南西部の全羅北道金堤市である。従業員数は 25 名、パートタイマーは季節により 40~70 人と変動する。

生産品目はパプリカ・トマトであり、パプリカの生産量は 5,000 トンで 7 割が日本向け輸出、3 割が国内の大手量販店向けとなっている。トマトは 2,000 トンで全量国内向けであり、大手量販店や小売市場に出荷している。年間売り上げ 200 億ウォン、うちパプリカが 150 億ウォンとなっている。

パプリカ生産者は  $30 \sim 40$  代が多く、生産者所得は平均 1 億ウォンであり、栽培面積は 1 ヘクタールが標準となっている。

2000 年 3 月に選果場が稼働し、翌 2003 年 4 月 ISO9001 認証取得、2006 年 9 月に KoreaGAP 認証を取得した。

GAP 導入のきっかけは、GAP モデル事業への参加であった。その際に優秀農産物管理施設の指定を受けるため、国から3割の補助金を受け選果場を改装した。

GAP を取る上で障害になったことは、生産者の意識改革である。生産者は GAP 取得により 価格アップの期待をしていたのに対し、GAP は農産物を生産・出荷する上で最低限の基準であることを分かってもらうため、生産者に対する GAP 研修により納得してもらうことが大変であった。

また、記帳についてはすべてパソコンによるデータ管理を行っている。もともと遠隔地の生産者を管理するためのコンピュータシステムであり、2004年に導入された。これが2006年のGAP認証に役立った。

農産貿易事務局の GAP 担当者は 4 名、農薬チェックなど生産者巡回が 2 名、履歴管理が 1 名、選果場の品質管理が 1 名となっている。

## 第三章 その他の GAP 取り組み状況

## GLOBALGAP と関連性を持つ GAP

## 1 GLOBALGAP と同等性認証を確立している GAP

2008 年 9 月の時点で、青果物で 11 の基準、花・観賞植物で 4 の基準、畜産で 1 の基準が同等性を取得している。

	青果物				
国名	基準名	呼称			
オーストリア	AMAGAP Version January 2008	「アマ GAP」			
スペイン	RG Naturane Version 2.0 25.2.2008	「ナトゥレーン」			
スペイン	Natursense versiòn 4/Diciembre 07	「ナトゥアセンス」			
ニュージーラン	New Zealand GAP Version April 2008	「ニュージーランド			
۴	New Zealand GAF Version April 2006	GAP J			
スペイン	UNE 155000 Version 2005				
	( * UNE155000 の審査はGLOBALGAP よりもず				
	っと頻繁に行われ、審査内容も厳しい。初年度は3				
	ヶ月に1度審査が行われ、残留農薬検査も審査機関	「ウネ 155000」			
	自身によって再度行われる。生産者にとっては負担	ンペ 133000 ]			
	が大きいが、UNE155000 を取得していることがス				
	ペイン国内のスーパーのいくつかの仕入れ条件に				
	なっている。)				
イギリス	AFS Assured Produce Generic Protocol	「アシュアード・プロデ			
	Standards 2008	ュース」			
チリ	ChileGAP Version 3.0. January 01, 2008				
	(*チリ GAP はヨーロッパに輸出するための				
	GLOBALGAP とアメリカに輸出するための Davis	「チリ GAP」			
	Fresh という基準の両方をまとめた形になってお	) ') GAP ]			
	り、これひとつを取得すればヨーロッパにもアメリ				
	カにも輸出できる、というのが強みである。)				
メキシコ	Mexico Calidad Suprema - GAP Version	「メキシコ・スプリーム			
	2.0	クオリティー」			
日本	JGAP 2.1	「JGAP」			
ドイツ	QS-GAP Version 2.0	「キューエス GAP」			

花・観賞植物			
国名	基準名	呼称	
オランダ	MPS-GAP Certification Scheme Version	「MPS」	
	8-19.02.2008		
コロンピア	Florverde version 5.1 December 2007	「Florverde」	
イギリス	British Ornamental Plant Producers (BOPP)	「BOPP シルバー	
	Silver Standard Version 1.0 2005	スタンダード」	
スイス	SWISSGAP Version August 2005	「スイス GAP」	

畜産(牛・羊)		
国名	基準名	呼称
ウルグア	CPCC_V3.0-2_Sept07_Rev.1_May08_CNMPU_GLOBALGAP	「CNMP」
1	Scope	

## 2 GLOBALGAP と条件付きの同等性認証を確立している GAP

2008 年 9 月の時点で、青果物で 2 の基準、花・観賞植物で 2 の基準が条件付きの同等性を取得している。付された条件は、GLOBALGAP に認可された審査認証機関があることである。

青果物			
国名	基準名	呼称	
スウェーデン	IP Integrerad produktion version 2007:1	「Integrerad Produktion」	
ケニア	KENYAGAP Version 1.0 2005 Rev Aug06	「ケニア GAP」	

花・観賞植物			
国名	基準名	呼称	
ケニア	KENYAGAP Version 1.0 2005 Rev Aug06	「ケニア GAP 」	
ケニア	KFC Silver Standard Version 1.1 Edition 6A	「KFC シルバースタン	
		ダード」	

## 3 GLOBALGAP と条件付きの同等性認証を確立している GAP

2008年9月の時点で、4つの基準が同等性認証を申請中である。

2000   0/10/20/// (/ 120/24/11/11/14/20/20/20/20/20/20/20/20/// 120/20/20/20/20/20/20/20/20/20/20/20/20/2					
	同等性認証申請中の GAP				
国名	基準名	対象	同等性認証の段階		
中国	CHINAGAP STANDARD	青果物、牛・羊、	会員レビュー中		
		酪農、家禽、豚			
アイルラン	IRISH QUALITY SALMON	鮭	書類審査中		
۴	STANDARD				
イギリス	PRODUCT CERTIFICATION	鮭	書類審査中		
	SCHEME FOR				
	SCHOTTISH QUALITY				
	FARMED SALMON				
ブラジル	TRIPLO A	牛・羊、酪農、	書類審査中		
		家禽、豚			

## 政府・民間が主導する GAP

国名	状況	情報源
マレーシア	マレーシア政府の農業省が"SALM"という独自の	マレーシア GAP
	GAP を開発し、普及している。SALM は"Sijil	
	Akreditasi Ladang Malaysia"の頭文字で、「マレー	き取り

	この専用物質 しいこを吐 のほどの甘港の中南は	
	シア農場認証」という意味。SALMの基準の内容は	
	GLOBALGAP とよく似ているが、マレーシア独自	
	の農業における現状を考慮したものになっている。	
アメリカ	アメリカでは、小売が独自の GAP を作成するので	アメリカの審査
	はなく、国の基準をそのまま海外農産物の仕入れ基	
		ーロッパの審査
	国農務省(United States Department of	会社からの聞き
	Agriculture:USDA )と米国食品医薬品局( Food and	取り
	Drug Administration: FDA)によって作成され、	
	任意に取り組むものとして発表されたが、小売がこ	
	の基準を採用し、審査会社に依頼して農場審査を行	
	っている場合もある。	
	基準の内容は、生物学的汚染(微生物)に関する項	
	目が非常に多い。化学的汚染や物理的汚染に関する	
	項目はほとんどない。GAP 関係者の間では「あれは	
	片手落ちだ」との批判も聞かれる。	
プラジル	EMBRAPA (Empresa Brasileira de Pesquisa	ブラジル生産者
	Agropecuária、日本語では「ブラジル農業研究社」)	グループからの
	がブラジルの農産物と畜産物に関する基準を作成	聞き取り
	し、普及している。	
	また、ブラジルでは GLOBALGAP の影響も強く、	
	GLOBALGAP のワーキンググループが活発に活動	
	している。GLOBALGAP のナショナル・ガイドラ	
	イン等も発行されている。	
ガーナ	ガーナでは農林水産省とアメリカの国際援助機関	左記のプロジェ
	(USAID)とドイツの国際援助機関(GTZ)の3社	クト関係者から
	が協力し合ってガーナの小規模生産者に GAP の普	の聞き取り、お
	及を行い、認証農産物を輸出するプロジェクトが進	よびにプロジェ
	められている。そのプロジェクトの一環としてガー	クト報告書
	ナ GAP の開発がある。これは団体認証を主に行う	
	ことを念頭に開発されており、将来的には	
	GLOBALGAP との同等性認証も検討されている。	
オーストラリア	西オーストラリア州農務省が主導して SQF という	オーストラリア
	規格を作成した。この SQF は第一次生産者向けの	食肉業者と、審
	SQF1000 と食品工場向けの SQF2000 がある。現在、	査機関からの聞
	FMI(全米フードマーケティング協会)が権利を取	き取り
	得・管理している、普及はオーストラリアよりも北	
	アメリカでさかんである。	
フランス	フランスでは小売が独自の仕入れ基準を固持してい	フランスの GAP
		普及について研
	いうよりは品質に徹底的にこだわる傾向が見られ、	究した元修士学
	小売は GLOBALGAP にそれほど強い興味を示して	
	3 75.5. GEODING 12 CTVICE 14V 17CM 21V O C	_; _; _, _, _,

いない。そのため GLOBALGAP の採用の率は低く、	I)
ヨーロッパの中でやや状況が違っている。	

# その他の分野で開発されている GAP

農産物	状況	情報源
コーヒー	Common Code for Coffee Community (略して「4	4C プロジェク
	C」とよばれている。) は当初、ドイツの国際援助機	ト担当者、及びに
	関(GTZ)と European Coffee Federation が協力	European
	して立ち上げたプロジェクトだったが、現在は独立	Coffee
	して NPO 法人として活動をしている。世界の大規	Federation のデ
	模生産者団体と加工業者、小売業者( Nestle や Kraft	ィレクターから
	Foods や Tchibo など)が会員として加盟している。	の聞き取り
	基準の内容としては GLOBALGAP よりも簡単であ	
	る。認証を行うというよりは、大規模コーヒー小売	
	業者の仕入先全体のレベルアップを目的としてい	
	る。	
綿花	Cotton Made in Africa というNGOによって作ら	Better Cotton
	れた綿花の基準がある。しかし、これはアフリカに	Initiative 関係
	あまりにも傾倒しているため、南アメリカやアジア	者、スイスの大手
	では使えないという批判があり、Better Cotton	小売業者、及びに
	Initiative というプロジェクトが立ち上がり、ヨー	GLOBALGAP ム
	ロッパの大手の小売や WWF なども参加して綿花の	ーラー氏からの
	基準作りを進めている。	聞き取り
	現在、GLOBALGAP も Cotton Made in Africa もし	
	くは Better Cotton Initiative と協力して綿花の基	
	準を作成することを検討している。	
パーム油	パーム油に関する基準がマレーシアで開発され、	左記のパーム油
	GLOBALGAP に「GLOBALGAP パーム油基準」と	基準を開発した
	して採用するよう求めている。内容は	本人からの聞き
	GLOBALGAP ととてもよく似ているが、パーム油	取り
	生産独特の項目などもいくつか見受けられる。	